YAMAHA

スノーモビル

取扱説明書

RX-1 M-TX SE

ご使用前に、かならず取扱説明書・本体ラベルを
お読みになり、内容を理解してからお使いください。

8GY-28199-00●

識別番号の記録

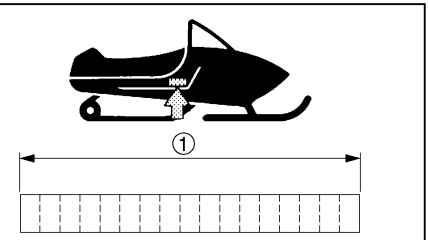
ヤマハ販売店にスペアパーツを注文するときのために、車体番号、エンジン番号、キー番号を下の空欄に記入しておいてください。

A. 車体番号：

B. エンジン番号

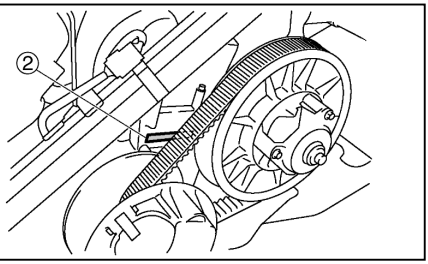
C. キー番号：

A



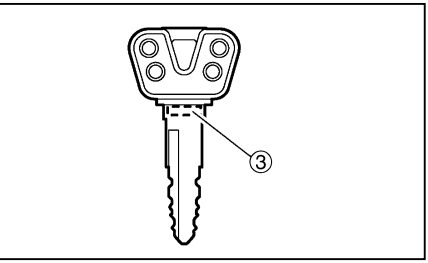
① **車体番号**はスノーモビルの車体に17桁の数字で刻印されています。（図 A.を参照）

B



② **エンジン番号**は図の位置に刻印されています。（図 B.を参照）

C



③ **キー番号**（図 C.を参照）

スノーモビルが盗難にあったときのためにこの取扱説明書とは別に番号を控えておいてください。

おねがい

ヤマハ商品をお買上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、商品の安全性に関する情報および商品の正しい取り扱い方法と簡単な点検・調整について説明してあります。
万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因となります。
あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を十分に発揮させるために、商品の取り扱いを十分ご存じの方も、この商品独自の装備、取り扱いがありますので、ご使用される前には必ず本書を最後までよくお読みください。また、ご使用時には携帯して、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

- 本書では正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠ 安全にかかわる注意情報を意味しています。

⚠警　告 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

⚠注　意 取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要　点 正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

この車はレース仕様車ではありません。
したがってレースにご使用されますと、保証対象外になることがあります。

- 仕様変更などにより、本書の写真や内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 本書は大切に保管し、本機の転売や譲渡をされる場合は必ず添付してください。
- 将来、廃棄される場合及びバッテリ、廃油等の廃棄処理をされるときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。
- 保証書はよくお読みいただき裏面の販売店名・捺印をご確認のうえ、大切に保存してください。

ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早目にお買い上げのヤマハ販売店にご相談またはお申しつけください。
ヤマハ販売店では、お客様の良きアドバイザーとしてご来店をお待ち申し上げております。

保証

問題の原因特定やその対処方法について疑問がある場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。認められていない修理、場当たり的な修理、または間違った修理をおこなった場合は保証が無効になりますので、保証中でも特に注意が必要です。ヤマハ販売店にはスノーモビルを正しく修理するために必要な特殊ツール、専門の技術、および予備部品が備わっています。仕様や保守手順に疑問があれば、常にヤマハ販売店にご相談ください。場合によっては、取扱説明書の印刷ミスや製造変更が原因で本書の説明が正しくないことがあります。当モデルに完全に精通するまでは、保守作業を始める前にヤマハ販売店にご相談ください。詳しい保守作業や点検のための情報をご希望の場合、ヤマハ販売店からサービスマニュアルを購入することもできます。

目次

⚠重要ラベル 5
⚠安全にご使用するにあたって 7
●運転の前に 7
●運転 8
●保守と保管 9
各部の名称 11
コントロール機能（各部の機能） 13
●メインスイッチ 13
●スロットルレバー 13
●エンジンオーバーヒート防止装置 13
●緊急安全装置
スロットルオーバーライドシステム
（T.O.R.S.） 14
●スピードメータユニット 15
●ハイビームインジケータ 17
●クーラント温度低下インジケータ 18
●燃料計とグリップ/サムウォーマー
レベルインジケータ 18
●フューエルレベル警告灯 20
●オイルレベル警告灯 20
●クーラント温度警告灯 21
●自己診断装置 21
●エンジン停止スイッチ 22
●ヘッドライトビームスイッチ 22
●グリップ/サムウォーマー調整
スイッチ 22
●予備用DCアウトレット 23
●ブレーキレバー 24
●パーキングブレーキレバー 25
●シフトレバー 25
●シュラウドとカバー 26
●ドライブガード 27
●Vベルトホルダ 27
●収納用コンパートメント 27
●リヤキャリヤ 27
●燃料 28
●サスペンション 29
使用前の点検 35
●使用前の点検リスト 35
操作方法 37
●エンジンの始動 37
●慣らし運転 38
●スノーモビルに乗る場合 38
●ドライブトラックを長持ち
させるには 42
●ストラップ 43
●走行 44
●エンジン停止 45

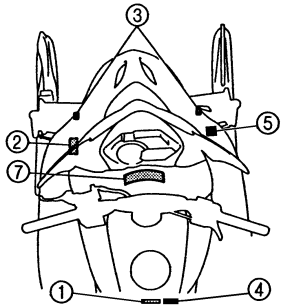
●輸送 46
定期点検 47
●排ガス制御装置の
定期点検チャート 47
●一般的な点検と潤滑チャート 48
●ツールキット 50
●シュラウドとカバーの取外しと
取付け 50
●スパークプラグの点検 52
●エンジンのアイドリング
回転数の調整 53
●スロットルケーブルの遊びの調整 54
●緊急安全装置
スロットルオーバーライドシステム
（T.O.R.S.）の点検 55
●エアフィルタの点検 56
●標高の高い場所で走行する場合の
設定 58
●バルブクリアランス 58
●エンジンオイルと、オイルフィルタ
カートリッジ 58
●冷却系 62
●Vベルト 64
●ドライブチェーンハウジング 67
●ブレーキ、パーキングブレーキ 69
●スキー、スキーランナー 71
●ステアリング系 72
●ドライブトラック、
スライドランナー 73
●山高パターンのドライブトラック 76
●給脂 76
●ヘッドライトバルブの交換 77
●ヘッドライトビームの調整 79
●取付金具、ボルト類 79
●バッテリ 79
●ヒューズの交換 80
トラブルシューティング 83
保管方法 87
仕様諸元 89
お客様ご相談窓口のご案内 91

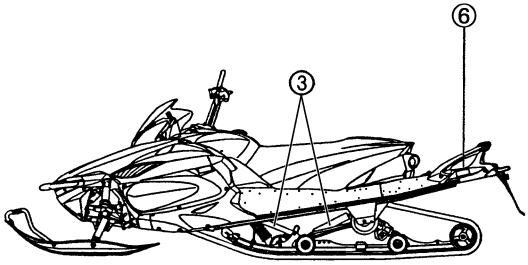
⚠重要ラベル

スノーモビルを運転する前に以下のラベルをよくお読みください。

要　点

安全上の注意ラベルや指示ラベルは、外さないようにし、必要に応じて交換してください。





①

⚠ 警　告

安全な運転のために次の事項を必ずお守り下さい。

- 運転前に“取扱説明書”および全ての“ラベル”を良く読み、熟知してからご使用下さい。
- 運転はスノーモビル運転に熟達した人の指導のもとで行って下さい。
- この車は一般道路は走行出来ません。（オフロード車）
- エンジン始動前にスロットルレバー、ブレーキレバー、ハンドル等が正常に作動することを確認して下さい。
- “パーキングブレーキ”をロックしてからエンジンを始動して下さい。また、走行前にはロックを解除して下さい。
- 緊急時のエンジン停止は“エンジンストップスイッチ”を押して下さい。
- “ドライブガード”や“Vベルト”を外したままでエンジンを始動しないで下さい。
- 燃料給油はエンジンを停止してから行い、給油後は“タンクキャップ”を確実に閉めて下さい。
- “ヘルメット”“ゴーグル”“手袋”“防寒具”等を装着して運転して下さい。
- 運転前にシフトレバーの位置（前進又は後進）を確認して下さい。

8BY-77761-00

②

⚠ 警　告

このドライブガード及びVベルトをはずしたままで、エンジンを始動しないで下さい。

8BD-77762-21

③

④

⚠ 注　　意

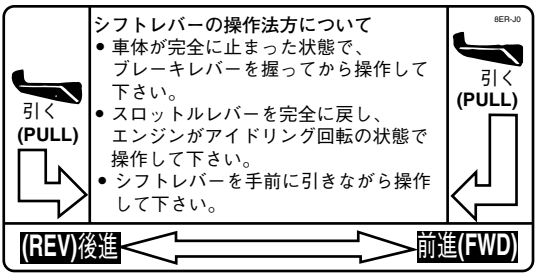
8ED-J0

この車輌は深雪走行用に51mm(2.0in.)山高トラックを装着しています。

●雪の少ない路面や氷上、硬い路面、泥地での使用は
スライディングランナーの早期摩耗、トラックの破損する恐れがあります。

SM0083

⑤



⑥

⑦

⚠ 警　告

ハンドルストラップの取り扱いを誤ると事故になるおそれがあります。

- 斜面走行中、山側に体重移動させてバランスを保つときのみにハンドルストラップを使用して下さい。
- ハンドルストラップの使用時は片方の手でハンドルを保持して下さい。
  また、走行中は急に車速や進行方向を変更しないで下さい。
- ハンドルストラップを使っての急斜面走行は熟達した人のみが行って下さい。

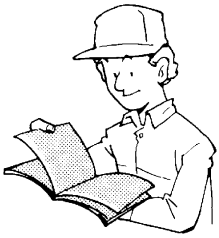
8FN-77761-J0

⚠安全にご使用するにあたって

スノーモビルに乗る時は、安全のため次の事項をよく理解し活用してください。
これら事項が守られなかった場合、死亡または重傷に至る恐れがあります。

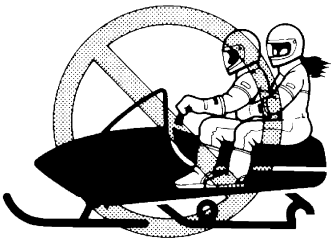
運転の前に

1. スノーモビルを運転する前に取扱説明書とラベル全部を読んでください。運転に関係するコントロール部位やその機能をすべて十分に理解してください。理解できないことについてはヤマハ販売店にご相談ください。

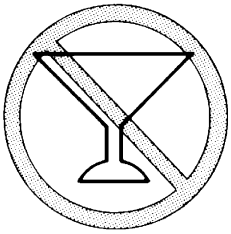


2. このスノーモビルは公道を走れるようには作られていません。公道の走行は法律で禁止されており、公道を走ると他の車両と衝突する恐れがあります。

3. 当スノーモビルは、運転者（ドライバー）のみが乗るように設計されています。
   同乗者（パッセンジャー）は乗ることができません。同乗者（パッセンジャー）を乗せると、制御不能になることがあります。



4. アルコール類や薬を飲んで運転しないでください。アルコールや薬は運転者の運転能力を低下させます。

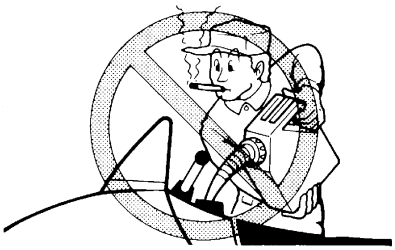


5. 安全のため、またスノーモビルの適切な手入れのため、エンジンを始動する場合は必ず35ページに記載された使用前の点検をおこなってください。エンジン始動のたびにスロットル、ブレーキ、ハンドルの適切な動作を点検してください。スロットルレバーがスムースに動き、放すと元の位置（完全にスロットルが閉じた状態のこと）に戻ることを確認してください。

6. エンジンを始動する時はあらかじめパーキングブレーキをかけてください。パーキングブレーキをかけたままスノーモビルを走らせないでください。もし走行させると、ブレーキディスクが加熱してブレーキング性能が低下する恐れがあります。

7. スノーモビルを始動、点検あるいは調整する時は、後ろに人が誰もいないことを確認してください。破損したトラックやトラック固定具、あるいはトラックがはね上げた小石などが、運転者や同乗者に危険を及ぼす恐れがあります。

8. 燃料は引火性が高いので注意して取り扱ってください。
   - エンジンが起動している時あるいは熱い時は、決して燃料を給油しないでください。燃料の給油は、スノーモビルの走行後数分間待ってエンジンを冷してからおこなってください。
   - ガソリン携行缶を使用する場合は消防法に適応したものを使用してください。
   - 燃料は戸外で慎重に燃料タンクに入れてください。屋内では燃料キャップを絶対に外さないでください。
     屋内では燃料タンクへの燃料給油を絶対におこなわないでください。
   - たばこを吸いながら、あるいは裸火の近くでは決して燃料給油をおこなわないでください。
   - 給油後は燃料キャップを確実に閉めてください。こぼれた燃料はただちに拭き取ってください。

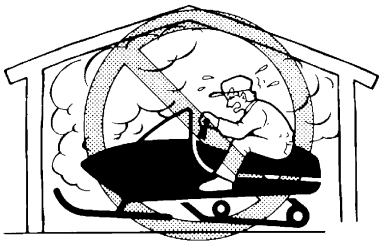


9. ガソリンが口に入った場合、気化したガソリンを大量に吸い込んだ場合、またはガソリンが目に入った場合は、すぐ医師の診察を受けてください。こぼれたガソリンが皮膚や衣服についた場合、すぐに皮膚を石鹸と水で洗い、衣類は着替えてください。

10. 体を保護する衣類を着用してください。ヘルメットはS、SG、またはJISマークのあるものを着用してください。フェイスシールドまたはゴーグルを着用してください。スノーモビル用スーツ、ブーツ、手袋（指でコントロール類の操作ができるもの）を着用してください。

運転

1. スノーモビルを建物に出し入れする時を除き、屋内でエンジンはかけないでください。屋内でエンジンをかける時は戸外に通じるドアを開いてください。排気ガスは有害です。



2. スノーモビルの走行は慎重におこなってください。雪の下には障害物が隠れていることがあります。スキーの跡をたどって走行すれば危険を最小限にとどめることができます。スキーから外れる時はゆっくり注意して走行してください。岩や切り株にぶつかったりワイヤーに引っかかったりすると事故や負傷のもとになります。

3. このスノーモビルは雪または氷の表面以外を走るようには設計されていません。泥、砂、ガラス、岩、露出した舗装の上を走行すると制御不能となり、あるいはスノーモビルを傷つけることがあります。

4. 泥や砂が大量に混ざっている鏡氷や雪の上で運転しないでください。このような条件下での運転はスキーランナー、ドライブトラック、スライドランナー、ドライブスプロケットを傷めたり磨耗を早めます。

5. 走行する時は必ず他のスノーモビルと一緒に行動してください。もし燃料がなくなり、事故にあい、あるいはスノーモビルが傷ついた場合、助けが必要になるからです。

6. 氷や圧雪など、多くの雪面では停止距離がはるかに長くなります。注意を怠らず、先を見通して、早めに減速してください。ほとんどの表面で最良のブレーキのかけ方は、スロットルを放し、ブレーキを徐々にかけることです（急にかけてはいけません）。

保守と保管

1. スノーモビルを長期間保管する場合は、左側を下にして置かないでください。さもないと燃料ブリーザーホースから燃料が漏れることがあります。

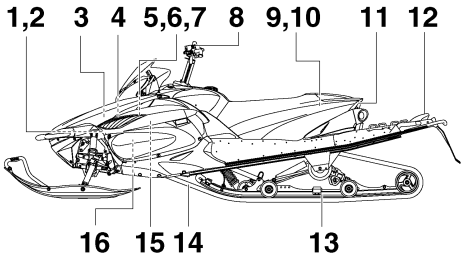
2. ヤマハの承認なしにスノーモビルを改造し、あるいは純正装備品を取り外した場合、スノーモビルを安全に使用することができなくなり、乗員が重大な負傷を負う恐れがあります。また改造したスノーモビルの使用は法律違反になります。

3. 給湯器やヒータ、裸火、火花、衣類の乾燥機など、発火源がある建物内では、決して燃料タンクに燃料を入れたままスノーモビルを保管しないでください。閉鎖空間にスノーモビルを保管する場合は、エンジンが冷えてからにしてください。

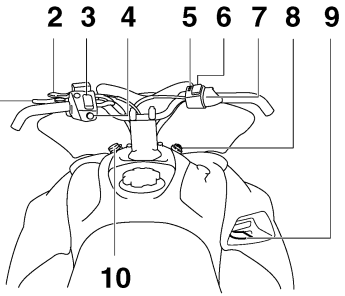
4. スノーモビルを長期間保管する場合は、必ず「保管方法」の項（87ページ）を参照してください。

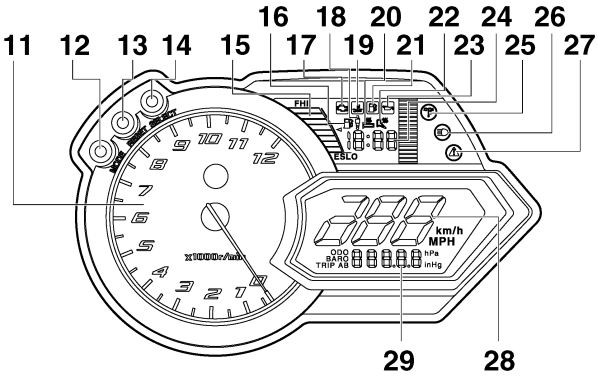
5. 安全上の注意ラベルや指示ラベルは、外さないようにし、必要に応じて交換してください。

各部の名称



1. バッテリ
2. メインヒューズ
3. エアフィルタ
4. オイルフィラーキャップ
5. ヒューズボックス
6 クーラントリザーバ
7. クーラント回収タンク
8. ストラップ
9. ツールキット
10. 収納用コンパートメント
11. テール/ブレーキライト
12. リヤキャリヤ
13. スライドレールサスペンション
14. ドライブトラック
15. Vベルトホルダ
16. アイドリングスピード調整ねじ





1. ブレーキレバー
2. パーキングブレーキレバー
3. グリップウォーマー調整スイッチ
4. ヘッドライトビームスイッチ
5. エンジン停止スイッチ
6. サムウォーマー調整スイッチ
7. スロットルレバー
8. メインスイッチ
9. シフトレバー
10. 予備用DCアウトレット
11. タコメータ
12. “MODE”ボタン
13. “RESET”ボタン
14. “SELECT”ボタン
15. 燃料計とグリップ/サムウォーマーレベル インジケータ
16. 燃料計
17. 自己診断警告灯
18. リヤサスペンションインジケータ（適用外）
19. クーラント温度警告灯
20. グリップウォーマーインジケータ
21. フューエルレベル警告灯
22. サムウォーマーインジケータ
23. オイルレベル警告灯
24. 時計
25. クーラント温度低下インジケータ
26. ハイビームインジケータ
27. 警告灯
28. スピードメータ
29. オドメータ/トリップメータ/バロメータ

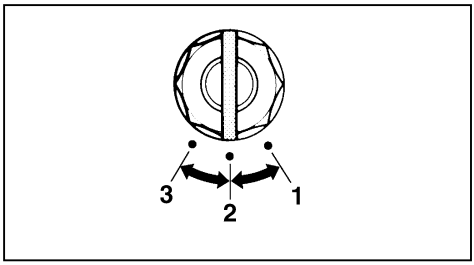
要　点

- お買い上げ頂いたスノーモビルは、当取扱説明書の図に示すものと細部が異なっている可能性があります。
- スノーモビルの設計内容や仕様は、予告なく変更される場合があります。

コントロール機能（各部の機能）

メインスイッチ

メインスイッチは、スノーモビルの点火系と灯火装置の制御をおこないます。メインスイッチの切替え位置は、以下の3つです。



1. Off（オフ）位置
2. On（オン）位置
3. Start（始動）位置

Off（オフ）位置

点火回路をオフにします。
キーはこの位置でのみ抜くことができます。

On（オン）位置

点火回路をオンにします。

Start（始動）位置

始動回路をオンにします。
スタータモータでエンジンが始動されます。

⚠注　意

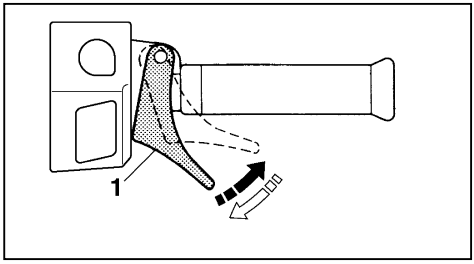
エンジンが始動したらすぐに、メインスイッチから手を離してください。

要　点

エンジンが始動するとヘッドライト、メータライト、テールライトが点灯します。

スロットルレバー

エンジンがスムースに回っている時、スロットルレバーを引くとエンジンの回転が上がり、動力が駆動系につながります。スロットル位置を変えてスノーモビルの速度を制御します。スロットルレバーはスプリングの力で押されており、スロットルレバーを放すとスノーモビルは減速し、エンジンはアイドリング状態に戻ります。



1. スロットルレバー

⚠警　告

エンジンを始動する前に、スロットル、ブレーキ、ハンドルが適切に動作することを確認してください（35ページを参照）。

エンジンオーバーヒート防止装置

当モデルには、エンジンのアイドリング回転時にオーバーヒートを防止する装置が内蔵されています。
エンジンのアイドリング回転が3分以上続き、クーラントの温度が100℃を超えた場合、オーバーヒートを防止するためにエンジンは自動的に停止します。

要　点

エンジンの停止後、再び始動することが可能です。

緊急安全装置

スロットルオーバーライドシステム（T.O.R.S.）

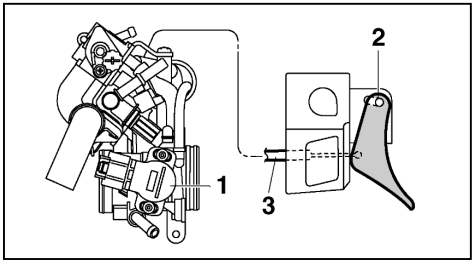
⚠警　告

- **T.O.R.S.が起動した場合は、不具合の原因が解消されエンジンが正常に動作することを確認した後、再度エンジンを始動してください。**
- **必ず、指定されたタイプのスパークプラグとスパークプラグキャップを使用してください。指定以外のものを使用した場合、T.O.R.S.が正常に動作しない恐れがあります。**

運転中にスロットル本体またはスロットルケーブルの機能不良が起こった場合、スロットルレバーを放した時にT.O.R.S.が動作します。
T.O.R.S.は、スロットルレバーを放してもスロットルバルブがアイドリング位置に戻らなかった場合に、燃料噴射を中断して、エンジンをクラッチが接続される回転数以下になるように設計されています。

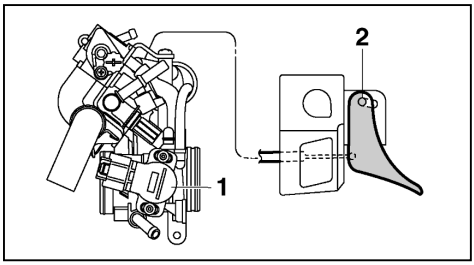
モード / 装置	アイドリング/始動	走行時	トラブル発生時
スロットルスイッチ	オフ	オン	オフ
スロットルポジションセンサー	閉	開	開
エンジン	回転	回転	T.O.R.S.起動

アイドリング/始動



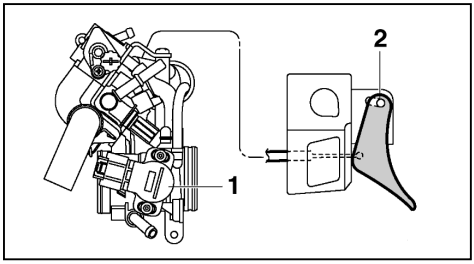
1. スロットルポジションセンサー（スロットルバルブは閉位置）
2. スロットルスイッチ（オフ位置）
3. スロットルケーブル

走行時



1. スロットルポジションセンサー（スロットルバルブは開位置）
2. スロットルスイッチ（オン位置）

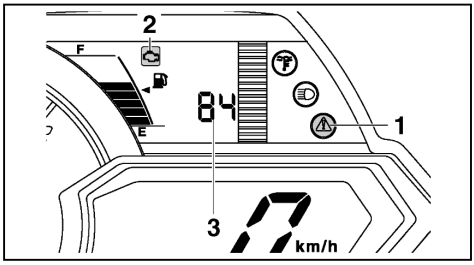
トラブル発生時



1. スロットルポジションセンサー（スロットルバルブは開位置）
2. スロットルスイッチ（オフ位置）

要　点

- T.O.R.S.が起動すると、警告灯と自己診断警告灯が点滅し、“84”というエラーコードが時計表示部に点滅表示されます。
- T.O.R.S.はスロットルポジションセンサー、スピードメータアセンブリ、およびスピードセンサーの状態を監視し、監視対象のいずれかで接続不良や機能不全が起こった場合に起動します。



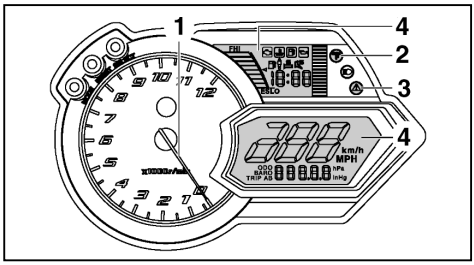
1. 警告灯
2. 自己診断警告灯
3. エラーコードが“84”を表示

スピードメータユニット

スピードメータユニットには、以下のそれぞれの機能が搭載されています：

- デジタルスピードメータ（走行スピードを表示します）
- オドメータ（総走行距離を表示します）
- トリップメータ（前回0 kmに設定してから現在までに走行した距離を表示します）
- バロメータ（外気圧を表示します）
- 時計
- 各種警告灯（自己診断結果、クーラント温度、フューエルレベル、およびオイルレベルの各警告を表示します）
- 燃料計（フューエルタンク内の燃料の残量を表示します）
- グリップ/サムウォーマーレベルインジケータ（グリップウォーマーレベルまたはサムウォーマーレベルを表示します）
- ディスプレイ輝度調整機能

エンジンを始動すると、タコメータの針が一度、最大値まで振れてから元に戻ります。またクーラント温度低下インジケータ、警告灯、およびメータの全セグメントライトが一度点灯してから消灯します。

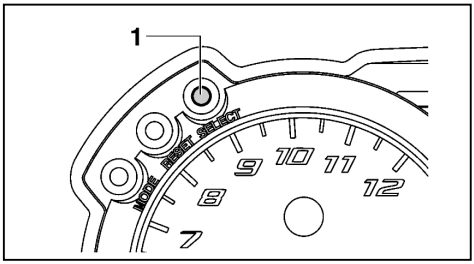


1. タコメータ
2. クーラント温度低下インジケータ
3. 警告灯
4. メータ表示

グリップウォーマーレベルは最初に5秒間ほど表示した後、燃料計の表示に切り替わります。

オドメータ、トリップメータ、バロメータのモード

“SELECT”ボタンを押す度に、オドメータモード「ODO」、トリップメータモード「TRIP AおよびTRIP B」、およびバロメータモード「BARO」に表示が切り替わります。

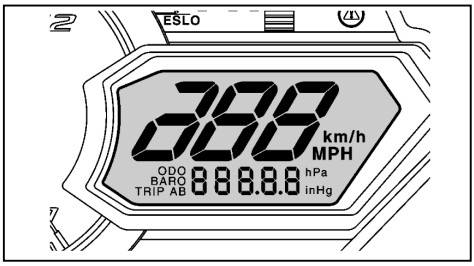


1. “SELECT”ボタン

トリップメータをリセットするには、トリップメータの表示時に、“RESET”ボタンを1秒間以上押し続けてください。

要　点

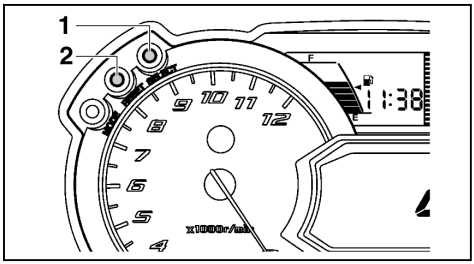
バロメータの「hPa」表示と「inHg」表示を切り替えるには、スノーモビルを停止させた状態で、バロメータモード「BARO」を選択し、“SELECT”ボタンを3秒間以上押し続けてください。



時計

時計の設定

1. 時間の桁が点滅するまで“SELECT”ボタンと“RESET”ボタンを同時に押します。



1. “SELECT”ボタン
2. “RESET”ボタン

2. “RESET”ボタンを押して時間の設定を変更し、“SELECT”ボタンを押します。分の桁が点滅し始めます。
3. “RESET”ボタンを押して分の設定を変更し、“SELECT”ボタンを押します。“SELECT”ボタンを押すと、時計が設定されます。

要　点

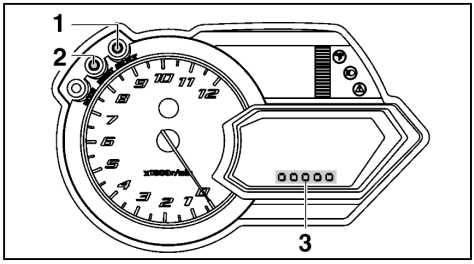
バッテリの接続を外した際は、時計を再設定する必要があります。

ディスプレイ輝度調整

この機能を使用して、屋外の明るさに合わせてメータディスプレイの輝度を調節できます。

ディスプレイの輝度調整

1. メインスイッチをオフ位置にします。
2. “SELECT”ボタンを押し込み、そのまま保持します。



1. “SELECT”ボタン
2. “RESET”ボタン
3. ディスプレイ輝度

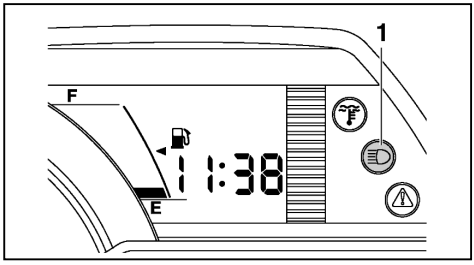
3. メインスイッチをオン位置にし、5秒後に“SELECT”ボタンを放します。
4. “RESET”ボタンを押してディスプレイの輝度を選択し、“SELECT”ボタンを押します。“SELECT”ボタンを放すと、通常画面に戻ります。

要　点

手順が完了する前にメインスイッチをOFFにしたりエンジンを始動した場合は設定が適用されません。

ハイビームインジケータ

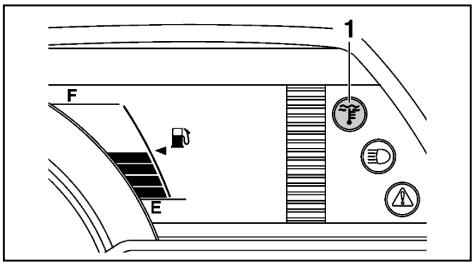
ハイビームインジケータは、ヘッドライトのハイビームをオンにした時に点灯します（ヘッドライトビームスイッチの詳細は、22ページを参照）。



1. ハイビームインジケータ

クーラント温度低下インジケータ

クーラント温度低下インジケータはクーラントの温度が低下した時に点灯し、スノーモビルの暖機運転が必要なことをライダーに伝えます。エンジンを始動し、インジケータが消灯するまで暖機運転を続けてください。



1. クーラント温度低下インジケータ

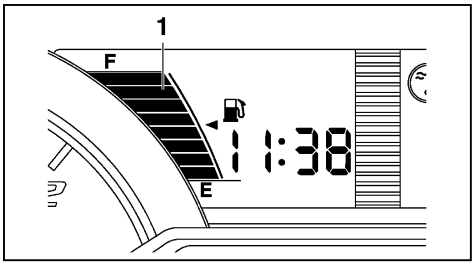
インジケータの消灯後、スノーモビルは正常に運転できます。

要　点

クーラント温度低下インジケータ点灯時は、スロットルレバーが押されてもエンジンコントロールシステムによりエンジンスピードは上がりません。

燃料計とグリップ/サムウォーマーレベルインジケータ

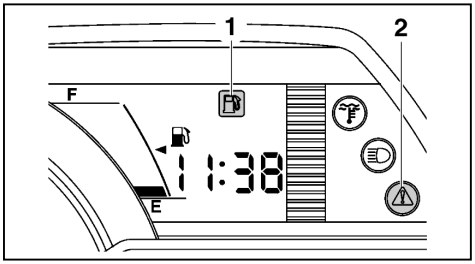
燃料計とグリップ/サムウォーマーレベルインジケータには、フューエルタンク内の燃料の残量表示と、グリップウォーマーレベルまたはサムウォーマーレベルを表示する8セグメントのインジケータがそれぞれ内蔵されています。



1. 燃料計とグリップ/サムウォーマーレベルインジケータ

燃料計

燃料計の表示セグメントは、フューエルレベルが低下するに従って“E”に向かって1つづつ消灯していきます。
表示セグメントの点灯が1つだけになった時、フューエルレベル警告灯と警告灯が点灯します。



1. フューエルレベル警告灯
2. 警告灯

フューエルレベル警告灯と警告灯が点灯した場合は、直ちに燃料を給油してください。

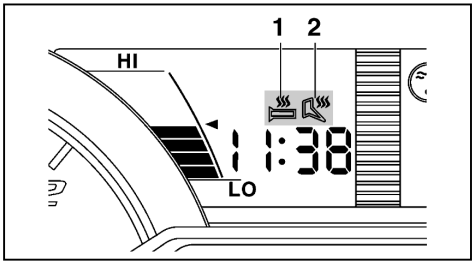
要　点

スノーモビルは移動したり傾斜させると燃料計の表示レベルが変化しますので、燃料計の正確な読取りをおこなうために、スノーモビルを水平な位置に停めてください。

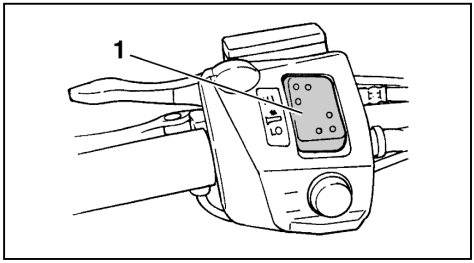
グリップ/サムウォーマーレベルインジケータ

グリップウォーマー調整スイッチを押すと、グリップウォーマーインジケータが点灯し、グリップウォーマーレベルの表示に切り替わります。

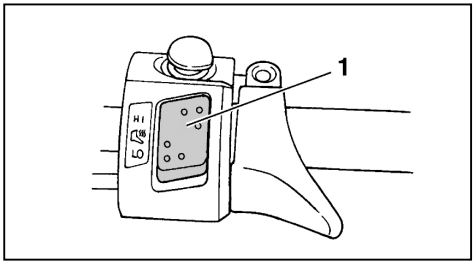
サムウォーマー調整スイッチを押すと、サムウォーマーインジケータが点灯して、サムウォーマーレベルの表示に切り替わります。



1. グリップウォーマーインジケータ
2. サムウォーマーインジケータ



1. グリップウォーマー調整スイッチ



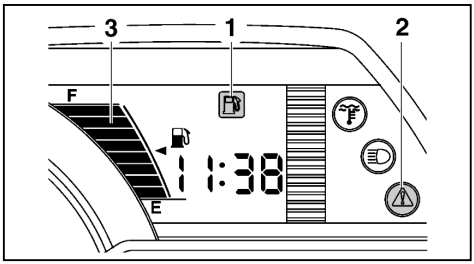
1. サムウォーマー調整スイッチ

要　点

- グリップ/サムウォーマー調整スイッチを解除すると、グリップウォーマーレベルを5秒間ほど表示した後、燃料計の表示に切り替わります。
- グリップ/サムウォーマーの調整値が最大レベルになると、グリップ/サムウォーマーレベルインジケータの一番上のセグメントが1回だけ光ります。グリップ/サムウォーマーの調整値が最少レベルになると、グリップ/サムウォーマーレベルインジケータの一番下のセグメントが1回だけ光ります。
- エンジンを始動した時、グリップ/サムウォーマーレベルはエンジン停止時に選択したレベルに設定されます。

フューエルレベル警告灯

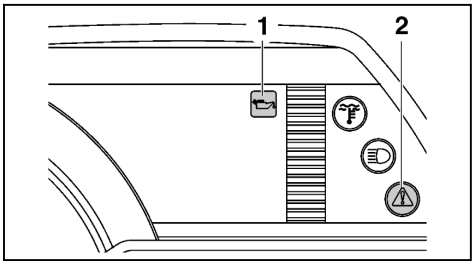
フューエルレベル警告灯は、スノーモビルの自己診断装置でセンサーの機能不良、カプラの接続不良、リード線の断線、またはショートが検出された時に点灯します。フューエルレベル警告灯、警告灯、および燃料計の各セグメントは、点滅を続けてライダーに上記の警告をおこないます。
このような状態が起こったときは、直ちにヤマハ販売店でスノーモビルの点検を受けてください。



1. フューエルレベル警告灯
2. 警告灯
3. 燃料計

オイルレベル警告灯

オイルレベル警告灯と警告灯は、エンジンオイル量が低下した時に点灯します。

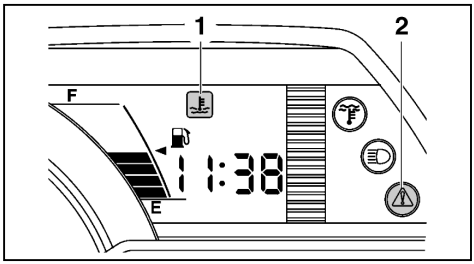


1. オイルレベル警告灯
2. 警告灯

オイルレベル警告灯と警告灯が点灯した場合は、スノーモビルを水平面に停止させ、1分間ほどアイドリング運転してください。オイルレベル警告灯と警告灯が消灯しない場合は、オイルタンク内のエンジンオイルレベルを確認し（エンジンオイルレベルの点検手順は58ページを参照）、必要に応じエンジンオイルを補充してください。

クーラント温度警告灯

エンジンがオーバーヒートした場合、クーラント温度警告灯と警告灯が点灯します。このような状態が起こった時は、直ちにエンジンを停止し、エンジンを冷却してから、クーラントリザーバ内のクーラントレベルを確認してください（点検手順は、62ページを参照）。



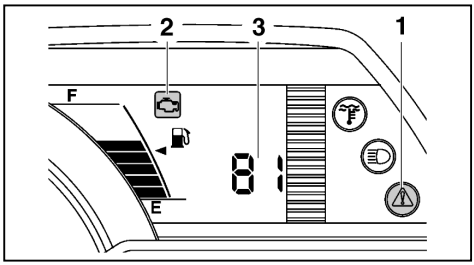
1. クーラント温度警告灯
2. 警告灯

⚠注　意

エンジンがオーバーヒートした場合は、運転しないでください。

自己診断装置

当モデルには、各種電気回路用の自己診断装置が搭載されています。
それらの回路のいずれかが故障した場合、警告灯と自己診断警告灯が点滅し、またトリップメータ/オドメータ表示内でエラーコードがゆっくり点滅します。



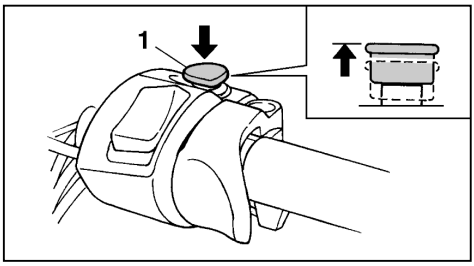
1. 警告灯
2. 自己診断警告灯
3. エラーコード

⚠警　告

自己診断警告灯と警告灯の点滅が続き、運転時にエラーコードが表示される場合は、電気回路やカプラなどに障害が発生した可能性があります。
このような状態が起こったときは、エンジンの損傷を防ぐために、直ちにヤマハ販売店でスノーモビルの点検を受けてください。

エンジン停止スイッチ

エンジン停止スイッチは緊急時にエンジンを停止させるために使用します。停止スイッチを押すだけで、エンジンは停止します。エンジンを始動するには、停止スイッチを引き戻してから、エンジン始動の手順をおこなってください（エンジンの始動手順は、37ページを参照）。

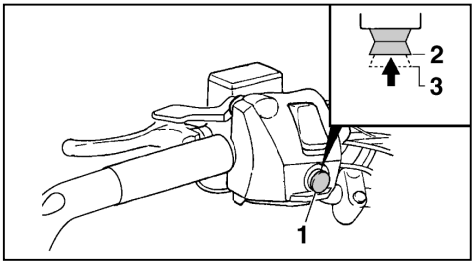


1. エンジン停止スイッチ

初めての何回かの走行の時、停止スイッチを使って練習し、緊急時にもすばやく対応できるようにしてください。

ヘッドライトビームスイッチ

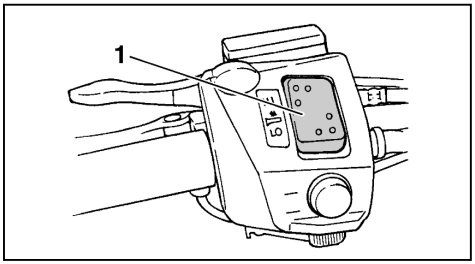
ヘッドライトビームスイッチを押す度に、ヘッドライトの“HI”（ハイ）と“LO”（ロー）が切り替わります。



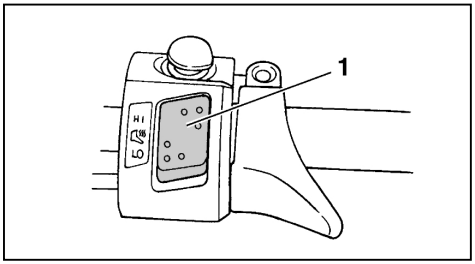
1. ヘッドライトビームスイッチ“LIGHTS”
2. ハイビーム“HI”
3. ロービーム“LO”

グリップ/サムウォーマー調整スイッチ

グリップウォーマー調整スイッチと、サムウォーマー調整スイッチは、電気加熱式のハンドルバーグリップとスロットルレバーをそれぞれ制御します。



1. グリップウォーマー調整スイッチ



1. サムウォーマー調整スイッチ

温度を高くするには、それぞれのスイッチを押して“HI”（ハイ）位置にしてください。温度を下げるには、スイッチを押して“LO”（ロー）位置にしてください。

予備用DCアウトレット

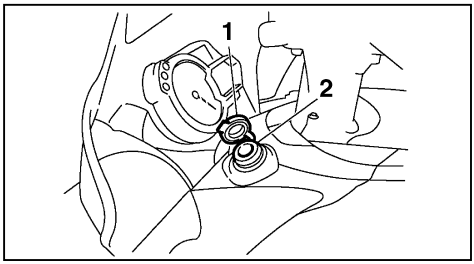
予備用DCアウトレットは、フロントパネル内に設けられており、各種のアクセサリ用に使用できます。

要　点

予備用DCアウトレットは、エンジンが回転していない時には使用できません。

予備用DCアウトレットの使用手順

1. エンジンを始動します。
2. 予備用DCアウトレットのキャップを開き、アクセサリの電源コードをこのジャックに差し込みます。



1. 予備用DCアウトレットのキャップ
2. 予備用DCアウトレット

要　点

予備用DCアウトレットを使った後は、アクセサリの電源コードをジャックから必ず抜いて、予備用DCアウトレットのキャップを閉じてください。

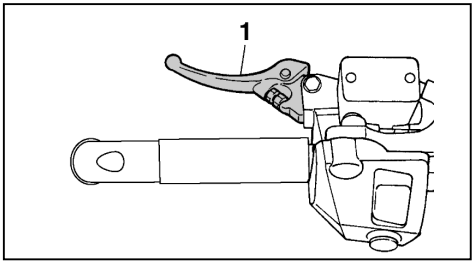
⚠注　意

- **予備用DCアウトレットの最大定格容量を超えるようなアクセサリは、接続しないでください。そのようなアクセサリを接続すると、回路が過負荷になりヒューズが溶断する恐れがあります（指定アンペア数については、82ページを参照）。**
- **車用のシガーライターや他のアクセサリで、プラグ部分を加熱させる方式のものは、電源ジャックに損傷を及ぼす恐れがありますので、使用しないでください。**

最大定格容量：
DC 12 V, 2.5 A（30 W）

ブレーキレバー

スノーモビルの停止は、駆動系全体にブレーキをかけておこなわれます。
スノーモビルを停止させるには、ブレーキレバーをグリップ方向に引いてください。



1. ブレーキレバー

要　点

ブレーキレバーを操作するとブレーキライトが点灯します。

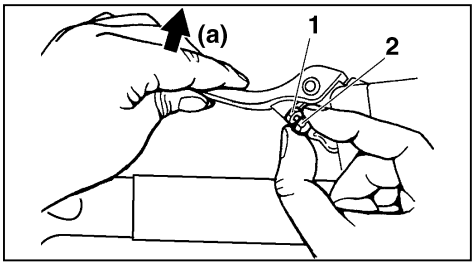
⚠注　意

**ブレーキレバーの端はハンドルバーの端より外に突出させないでください。
そうすればスノーモビルを整備のため横位置にした場合もブレーキレバーを傷めません。**

ブレーキレバーにはポジションアジャスタが付いています。

ブレーキレバーポジションの調整

1. ロックナットを緩めます。
2. ブレーキレバーを（a）の方向に軽く押しながら、ブレーキレバーが目的の位置にくるまで調整ボルトを手で締め付けます。

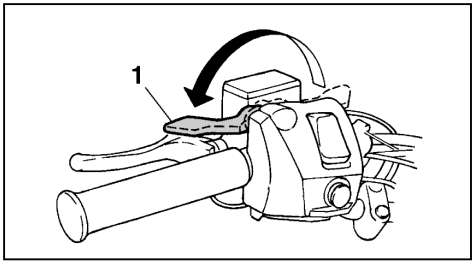


1. ロックナット
2. 調整ボルト

3. ブレーキレバーの調整後、ロックナットをしっかりと締め付けます。

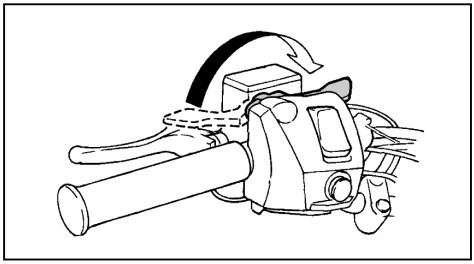
パーキングブレーキレバー

スノーモビルを駐車しあるいはエンジンを始動する場合、パーキングブレーキレバーを左に倒してパーキングブレーキをかけてください。



1. パーキングブレーキレバー

パーキングブレーキを解除するには、パーキングブレーキレバーを右に倒してください。

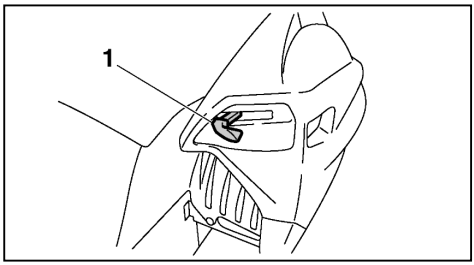


⚠警　告

- **エンジンの始動は、必ずパーキングブレーキをかけてからおこなってください。**
- **パーキングブレーキをかけたままの状態では、決してスノーモビルを走らせないでください。もし走行させると、ブレーキディスクが加熱してブレーキング性能が低下する恐れがあります。**

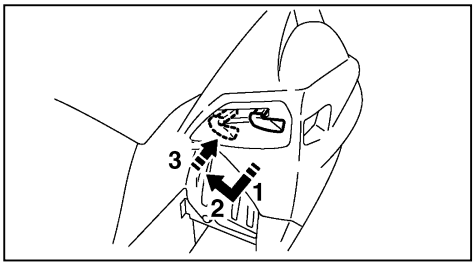
シフトレバー

シフトレバーは、スノーモビルの前進および後退の切替えに使用します。スノーモビルが完全に停止してから、シフトレバーを引き出して“FWD”または“REV”の停止位置までスライドし、手を放してください。



1. シフトレバー

1. 引き出す
2. “FWD”（前進）にスライドする
3. 放す



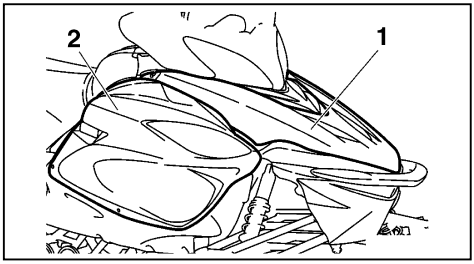
1. 引き出す
2. “REV”（後退）にスライドする
3. 放す

⚠注　意

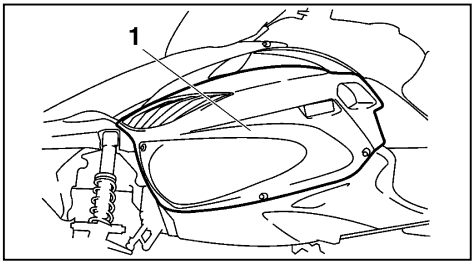
スノーモビルが動いている時は、シフトレバーを“FWD”から“REV”に、または“REV”から“FWD”にシフトしないでください。そのようなシフトをおこなうと、駆動系が損傷する恐れがあります。

シュラウドとカバー

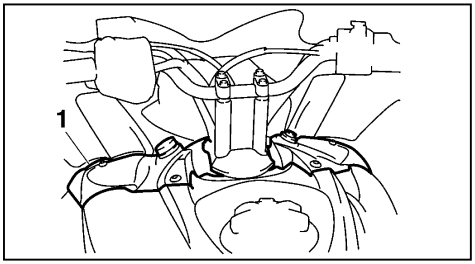
スノーモビルを運転する前に、シュラウドとカバーを確実に固定してください（取外しおよび取付け手順は、50ページを参照）。



1. シュラウド
2. 右側カバー



1. 左側カバー



1. トップカバー

⚠警　告

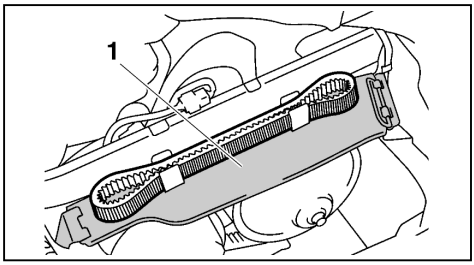
- **シュラウドやカバーを固定していない状態、または取り外した状態では、スノーモビルを運転しないでください。**
- **シュラウドまたはカバーを外した状態でスノーモビルの整備をおこなう時は、回転部品に身体や着衣が触れないように特に注意してください。**
- **運転中および運転直後は、高温状態のマフラーやエンジンに接触しいように特に注意してください。**

⚠注　意

シュラウドやカバーを取り付ける前に、すべてのケーブルやリード線などが正しく接続されていることを確認してください。

ドライブガード

ドライブガードは、部品の破断や緩みに備え、Vベルトクラッチ やVベルトをカバーするように設計されています。



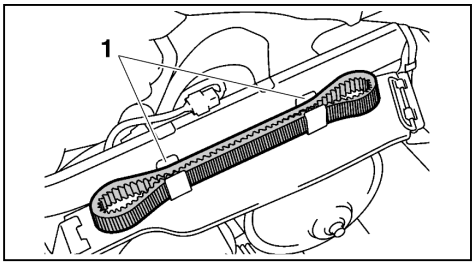
1. ドライブガード

⚠警　告

- **スノーモビルを運転する時は、あらかじめドライブガードがしっかりと締まっていることを確認してください。**
- **Vベルトやドライブガードを外した状態では、決してエンジンを回転させないでください。**

Vベルトホルダ

予備のVベルトを緊急時のために用意し、Vベルトホルダに装着してください。



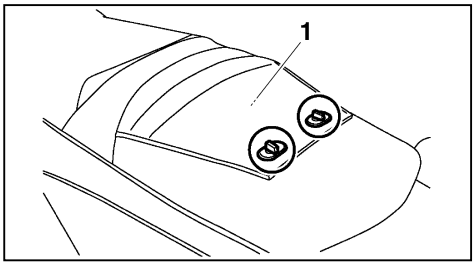
1. Vベルトホルダ

⚠注　意

Vベルトはホルダにしっかりと固定してください。

収納用コンパートメント

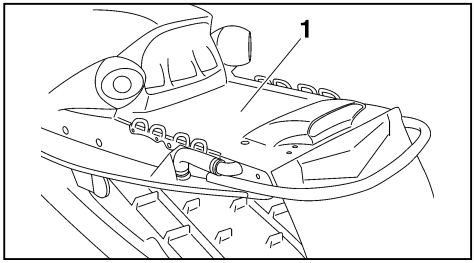
収納用コンパートメントを開いて、工具キット、スペアパーツ、その他の小物の収納してください。



1. 収納用コンパートメント

リヤキャリヤ

リヤキャリヤはスノーモビルの後部に設けられています。



1. リヤキャリヤ

最大荷重限度：10 kg

⚠警　告

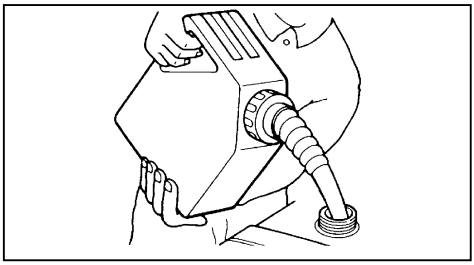
スノーモビルを持ち上げる時に、リヤキャリヤを利用しないでください。
そのようなことをすると、スノーモビルが落下して、そばに立つ人が重傷を負ったり、死亡する危険があります。

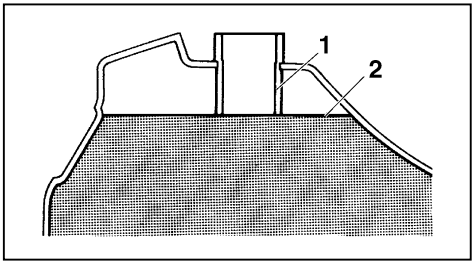
燃料

燃料タンクには燃料を十分に給油しておいてください。

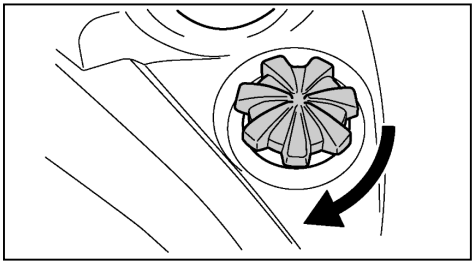
⚠警　告

- **燃料は引火性が高く有毒です。燃料を給油する前に「安全にご使用するにあたって」の項をよくお読みください（7ページを参照）。**
- **給油の時、液面が燃料タンクのフィラーチューブの底を超えないようにしてください。スノーモビルが傾いた場合、あるいは周囲の温度が上昇して燃料の温度が上がり容積が拡張すると、燃料はあふれることがあります。**
- **給油後は燃料キャップを確実に閉めてください。燃料が漏れると引火する恐れがあります。**





1. フィラーチューブ
2. 燃料のレベル



推奨燃料：
　無鉛ガソリン
燃料タンク容量：
　38.3 L

⚠注　意

- **給油時に、雪や氷が燃料タンクに入らないよう気をつけてください。**
- **燃料タンクには指定の無鉛ガソリンを給油してください。**

サスペンション

サスペンションはライダーの好みに応じて調整することができます。たとえば柔らかい設定にすると乗り心地がよくなり、固い設定にすると特定のタイプの地形や走行条件でハンドリングや制御がいっそう正確におこなえるようになります。

⚠警　告

この調整は必ずヤマハ販売店に依頼してください。
当ショックアブソーバーには高圧の窒素ガスが封入されています。誤った使い方をすると、破裂して、負傷や物的な損害を引き起こす恐れがあります。

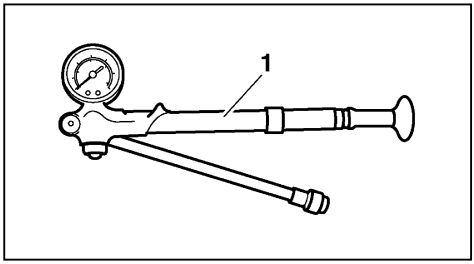
- **ショックアブソーバーを開けたり、改造しないでください。**
- **ショックアブソーバーを火中に投じたり、高温の熱源に近づけないでください。爆発する恐れがあります。**
- **ショックアブソーバーを変形させたり、損傷を与えないようにしてください。**
- **摩耗したり損傷したショックアブソーバーを、ユーザご自身が廃棄しないようにしてください。該当するショックアブソーバーは、ヤマハ販売店にお持ちください。**

フロントショックアブソーバーのエア圧

⚠注　意

左右のフロントショックアブソーバーのエア圧は、同一設定にしなければなりません。同一設定でなかった場合、ハンドリング性能が低下し安定性が失われる恐れがあります。

当スノーモビルには、FOXショックアブソーバが標準搭載されています。
ショックアブソーバのエア圧は、スノーモビルに装備のショックアブソーバポンプを使って調整できます。



1. ショックアブソーバポンプ

エア圧の調整

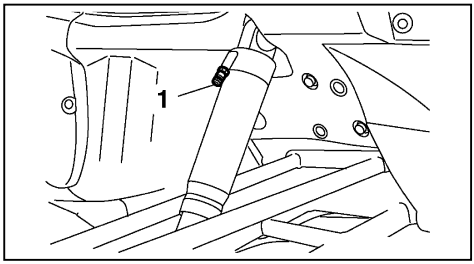
⚠警　告

ショックアブソーバを調整する時は、あらかじめ適切なスタンドでスノーモビルをしっかりと支えてください。

⚠注　意

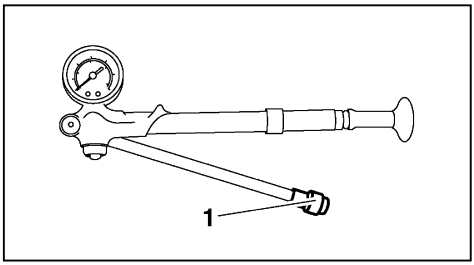
ショックアブソーバには負荷がかかっていないことを確認し、またエア圧の調整をおこなう前にショックアブソーバが完全に伸びきっていることを確認してください。

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけてください。
2. スノーモビルのフロントを持ち上げて適切なスタンドに載せ、スキーを地面から離します。
3. ショックアブソーバからエアバルブキャップを外します。



1. エアバルブキャップ

4. ショックアブソーバポンプのホースコネクタをショックアブソーバのエアバルブに接続し、ポンプゲージでエア圧が認められるまで、約6回ほどホースコネクタを回転させて締めてください。



1. ホースコネクタ

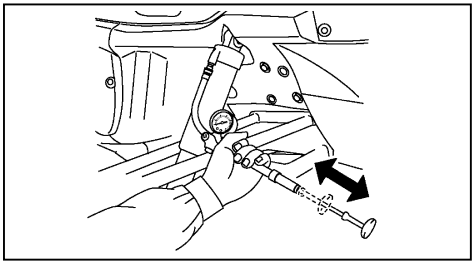
▲注　意

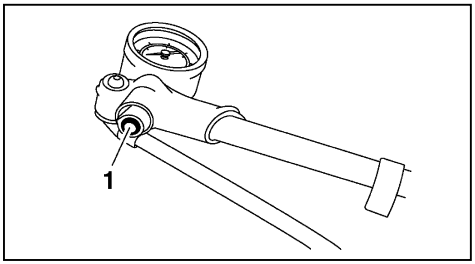
エアバルブに繋いだホースコネクタを強く締めると、コネクタのシールが損傷しますので、締めすぎないようにしてください。

要　点

ショックアブソーバにエア圧が無い場合、ポンプゲージの表示は0になります。

5. エア圧を上げるには、ポンプを2～3回動かしてください。エア圧がゆっくりと上昇します。エア圧が急激に上昇する場合は、ショックアブソーバポンプが正しく接続されているか、またホースコネクタがエアバルブに確実に接続されているか確認してください。エア圧を下げるには、黒色のエア抜きバルブのボタンを押してください。





1. エア抜きバルブのボタン

要　点

ショックアブソーバおよびショックアブソーバポンプのエアを抜くには、エア抜きバルブのボタンを半分ほど押し込み、そのまま保持してください。ごく少量のエア抜きをする場合は、エア抜きバルブのボタンを完全に押し込み、すぐに指を離してください。

6. ホースコネクタをエアバルブから外してください。

要　点

ホースコネクタを外した時にエアが抜ける音が聞こえることがありますが、これはポンプのホースからエアが抜ける音で、ショックアブソーバからエアが抜ける音ではありません。

エア圧の範囲：
345 KPa（3.4 kgf/cm²）～
1,034 KPa（10.3 kgf/cm²）
推奨エア圧：
379 kPa（3.8 kgf/cm²）

⚠注　意

エア圧が1,034 KPa（10.3 kgf/cm²）を超えないようにしてください。

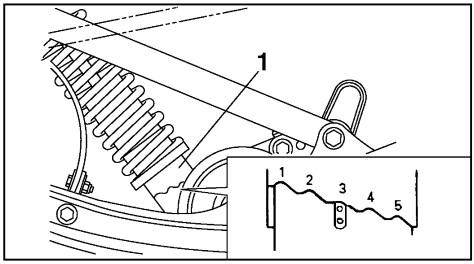
7. エアバルブキャップを取り付けてください。

要　点

フロントサスペンションが簡単に底付きする場合や、コーナリング時に過度にロールする場合は、エア圧を34 KPa（0.3 kgf/cm²）ほど上げてください。サスペンションが固すぎる場合や、柔らかくして乗り心地を良くしたい場合は、エア圧を34 KPa（0.3 kgf/cm²）ほど下げてください。

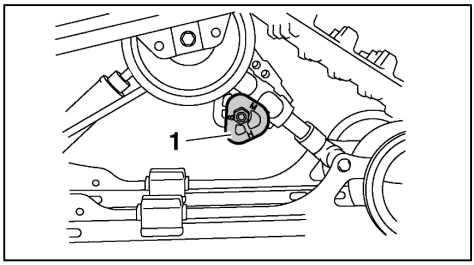
リヤサスペンションの調整

リヤサスペンションのスプリングプリロードは、センターショックアブソーバに付いているスプリングプリロード調整リング、またはリヤショックアブソーバに付いているスプリングプリロードアジャスタを回して調整することができます。



1. スプリングプリロード調整リング

センターショックアブソーバ位置でのスプリングプリロードの設定（スプリングシートの長さまたはスプリングプリロード調整リングの位置）：
最小位置（ソフト）：
1
標準位置：
3
最大位置（ハード）：
5
* スプリングシートの長さは、スプリングプリロード調整リングを1回転させると、約1.5 mm変化します。



1. スプリングプリロードアジャスタ

リヤショックアブソーバ位置でのスプリングプリロードの設定（スプリングプリロードアジャスタの位置）：
最小位置（ソフト）：
S
標準位置：
M
最大位置（ハード）：
H

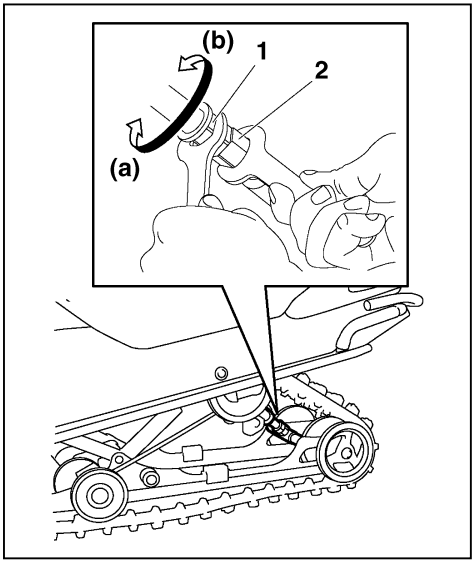
要　点

リヤサスペンションのスプリングプリロードは、スプリングシート位置を変更することでより幅広い調整ができます。
この調整は特殊工具が必要ですので、ヤマハ販売店に依頼してください。

コントロールロッドの調整

ストローク量は、コントロールロッドアジャスタまたは調整ナットを回して調整することができます。

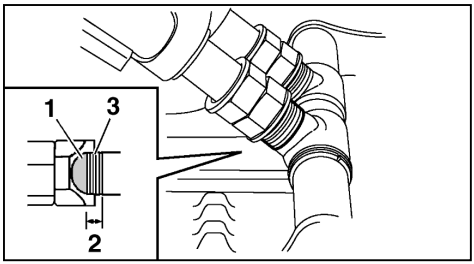
1. コントロールロッドの調整ナットをしっかり保持しながら、ロックナットを緩めてください。
2. ストローク量を増やすには、コントロールロッド調整ナットを（a）方向に回し、ストローク量を減らすには（b）方向に回してください。



1. ロックナット
2. コントロールロッド調整ナット

⚠警　告

コントロールロッドに赤色のペイントで示されている最大範囲を超えて、コントロールロッドを調整しないでください。



1. コントロールロッドの赤色ペイントの部分
2. 調整可能な範囲
3. 標準位置

3. コントロールロッドの調整ナットを所定の位置で保持したまま、ロックナットを締めてください。

ロックナットの締付けトルク：
25 Nm（2.5 m・kgf）

⚠注　意

- **ユーザ用ツールキットに含まれている2つのレンチを使う時は、図に示すようにコントロールロッドに直角になるように保持し、ロックナットとコントロールロッド調整ナットをそれぞれ確実に挟むようにしてください。**
- **左右の調整ナットは同じ位置に設定しなければなりません。同一設定でなかった場合、ハンドリング性能が低下し安定性が失われる恐れがあります。**

使用前の点検

スノーモビルを正常に保つのは、購入者の責任です。スノーモビルを使用しない場合でも、（各部品が大気にさらされる影響などで）重要なパーツの劣化が短期間に、予想しない形で進む可能性があります。何らかのダメージや液体の漏れが、深刻な結果をもたらすことになります。従ってスノーモビルに乗る前には、スノーモビル全体の目視検査の他に、以下の項目の点検が非常に重要です。

要　点

使用前の点検はスノーモビルに乗るたびに、おこなってください。使用前の点検はごく短時間で終わるものであり、点検に費やす時間よりも、それによって得られる安全の方がはるかに重要です。

⚠警　告

使用前の点検リストで問題が見つかった場合は、スノーモビルを運転する前に点検と修理を受けてください。

使用前の点検リスト

点検項目	点検内容
燃料	• 燃料の量を点検する。 • 必要に応じ給油する。 • 燃料系統の漏れの有無を点検する。
エンジンオイル	• エンジン内のオイルレベルを点検する。 • オイルレベルが低い場合は、推奨エンジンオイルを規定レベルまで補給する。 • エンジンオイルの漏れの有無を点検する。
クーラント	• クーラントレベルを点検する。 • 必要に応じクーラントを補給する。
Vベルト	• 磨耗、損傷の有無を点検する。 • 必要に応じ、交換する。
ドライブガード	• ドライブガードが確実に固定されているか確認する。 • ドライブガードの取付け部に損傷がないか点検する。 • ドライブガードが所定位置に確実に固定されているか確認する。
ブレーキ	• 動作を点検する。 • ブレーキの効きがソフトまたはスポンジを踏んだような感じの場合は、ヤマハ販売店で油圧系統のエア抜きをおこなう。 • ブレーキパッドの摩耗の有無を点検する。 • 必要に応じ交換する。 • マスターシリンダ内のブレーキ液レベルを点検する。 • 必要に応じ推奨ブレーキ液を規定レベルまで補充する。 • 油圧系統の漏れの有無を点検する。
エアフィルタ	• エアフィルタエレメントの下側に残雪がないか、点検する。 • 必要に応じ残雪をブラシで取り除く。

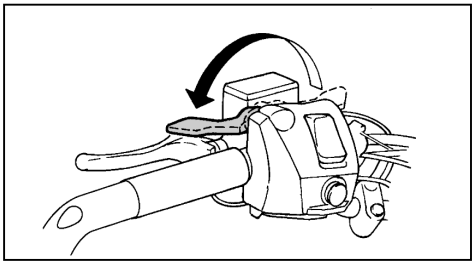
点検項目	点検内容
ツールキットと推奨装備	• 適切な位置に収納されているか点検する。
シュラウドとカバー	• シュラウドとカバーが確実に取り付けられていることを確認する。
スキー、スキーランナー	• 摩耗や損傷の有無を点検する。 • 必要に応じヤマハ販売店でスキーまたはスキーランナーを交換する。
ドライブトラック	• 弛み（たわみ）、摩耗および損傷の有無を点検する。 • 必要に応じヤマハ販売店でドライブトラックを交換する。
スライドランナー	• 摩耗や損傷の有無を点検する。 • 必要に応じヤマハ販売店でスライドランナーを交換する。
ステアリング	• 過度の遊びがないか点検する。
ストラップ	• 損傷の有無を点検する。 • 必要に応じ交換する。
ライト、シグナル、スイッチ類	• 動作を点検する。 • 必要に応じ修理/交換する。
スロットルレバー	• 動作がスムーズで、スロットルレバーから手を離すと、スプリングの力で元の位置に戻るか確認する。
緊急安全装置 スロットルオーバーライドシステム（T.O.R.S.）	• T.O.R.S.が適切に動作するか点検する。 • T.O.R.S.システムが動作不良の場合は、ヤマハ販売店でスノーモビルの点検をおこなう。

操作方法

エンジンの始動

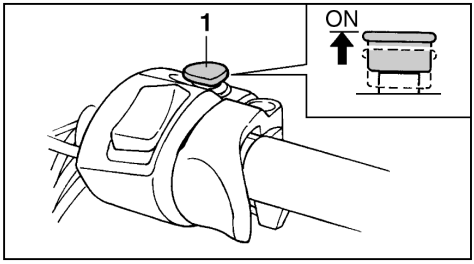
⚠警　告

- **エンジンを始動させる前に必ず「安全にご使用するにあたって」の項をよくお読みください。**
- **パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。**



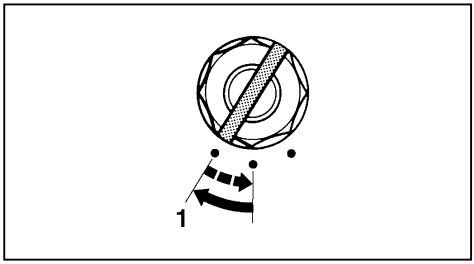
要　点

エンジン停止スイッチが“ON”位置にあることを確認してください。エンジン停止スイッチがオフ位置の時は、スタータモータを始動させることができません。



1. エンジン停止スイッチ

メインスイッチをスタート位置にします。エンジンの回転が安定するまで暖気運転します。



1. Start（始動）位置

⚠注　意

- **エンジンが始動したらすぐに、メインスイッチから手を離してください。**
- **エンジンが始動しなかったらスイッチを離し、数秒まって再度スイッチを入れてください。バッテリの消耗を防ぐため、スイッチを入れる時間はなるべく短くしてください。スイッチを押してエンジンを回す時間は、一回につき10秒以内にしてください。**

慣らし運転

スノーモビルの全使用期間のうちで、積算走行距離が500 kmまでの慣らし運転の期間ほど大切な期間はありません。このため、以下の説明に十分目を通し、その指示に従ってください。

エンジンは新品の状態のため、最初の500 kmまでは過度な負荷をかけないでください。エンジン内のさまざまなパーツが相互に摩耗と研磨を繰り返して、正しい動作間隔を保つようになります。この慣らし運転の期間は、フルスロットル操作を長く続けないようにし、またエンジンがオーバーヒートするような条件を避ける必要があります。

新しいスノーモビルを初めて運転する場合

エンジンを始動し、15分間ほどアイドリング運転してください。

0～160 km間

6000 r/min以上の回転を長時間続けないでください。

160～500 km間

8000 r/min以上の回転を長時間続けないでください。

500 km以降

慣らし運転の期間が終わり、スノーモビルを普通に運転することができます。

⚠注　意

- **800 km走行した時点で、エンジンオイルを交換し、オイルフィルタカートリッジを交換してください。**
- **エンジンの慣らし運転期間中にエンジンで何らかのトラブルが発生した場合は、直ちにヤマハ販売店でスノーモビルの点検を受けてください。**

スノーモビルに乗る場合

スノーモビルをよく知ろう

スノーモビルはライダーが体でコントロールする乗り物で、ライディングポジションとバランスがスノーモビルを操縦する2大要素です。

スノーモビルに乗るには、長時間にわたる実践で技量を習得する必要があります。

高度なライディングを試す前に、基本的な技能を確実に習得してください。

新しくお求めになったスノーモビルを運転するのは楽しく、時間を忘れてしまうでしょう。しかし楽しく安全に乗るには十分な技量が必要で、その技量を身につけるにはスノーモビルの操作に習熟することが不可欠です。スノーモビルを運転する前に、まず「取扱説明書」を熟読し、コントロール類の操作をよく理解してください。

特に7ページ目に記載された「安全にご使用するにあたって」には注意を払ってください。

スノーモビルの車体に貼られた警告ラベルと注意ラベルには、すべて目を通してください。

スノーモビルの乗り方を学ぶ

スノーモビルに乗る時はその前に、35ページのリストにある使用前の点検を必ずおこなってください。スノーモビルの点検に短時間を費やしても、安全性やスノーモビルの信頼性が高まることで報われます。ライダーの体温を保ち、また事故が起こった場合に怪我をしないように、常に適切な服装を着用してください。

たとえ十分なライディング経験があっても、お買い求めのスノーモビルにはまず低速運転から慣れてください。スノーモビルのハンドリングや性能特性を完全に把握するまでは、スノーモビルを最高性能で運転しないでください。

初心者ライダーは、広く平坦な雪上で、スノーモビルに慣れるようにしてください。障害物や他のスノーモビルなどが走行しない場所を選ぶようにしてください。スロットルとブレーキのコントロール方法を練習し、旋回の技術を習得してから、さらに難易度の高い地形にトライするようにしてください。

エンジンをかける時はあらかじめパーキングブレーキをかけ、37ページの指示に従ってください。エンジンの暖気運転が完了すると、走行可能な状態になります。

発進、加速

1. エンジンをアイドリングさせたまま、パーキングブレーキを解除します。
2. スロットルをゆっくりとスムースに開けます。
   Vベルトクラッチがつながり、発進して加速します。

⚠警　告

運転者は常に両手でハンドルバーをにぎっていてください。フートレストの外に足を絶対に出さないでください。スノーモビルとそのコントロール類に十分習熟するまでは、高速走行をしないでください。

ブレーキをかける

減速または停止する時は、スロットルを放し、ブレーキを徐々にかけます（急にかけてはいけません）。

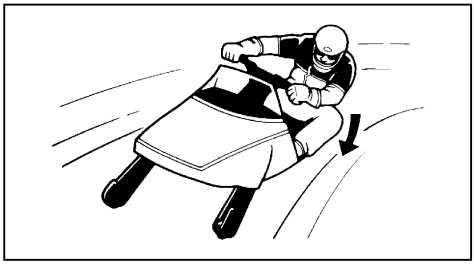
⚠警　告

- **氷や圧雪面など、多くの雪面では停止距離がはるかに長くなります。注意を怠らず、先を見通して、早めに減速してください。**
- **ブレーキのかけ方が悪いとドライブトラックがトラクション（グリップ力）を失い、制御能力が低下し、事故を起こす可能性が高くります。**

曲がる

大部分の雪面では「体を使って」曲がることが大切です。

カーブに近づくに従って減速し、曲がりたい方向にハンドルバーを徐々に向けます。同時に曲がる方向のフートレストに体重をかけ、上体を内側に傾けます。



障害物のない広い平らな場所で、この手順を低速で何度も練習してください。いったんこのテクニックが身についたら、もっと高速できついカーブでも応用できるはずです。

スロットルの急な開閉、強すぎるブレーキ操作、間違った体の動かし方、カーブに対して速すぎる速度など、不適切な運転方法はスノーモビルの転倒の原因となります。

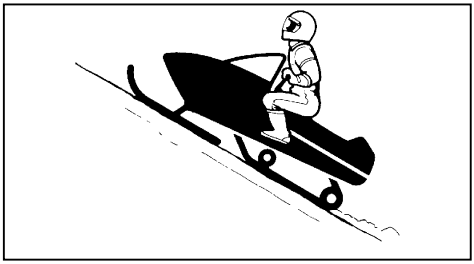
カーブでスノーモビルが転倒しかけたら、体をさらに内側に傾けてバランスを取り戻してください。必要ならスロットルをゆっくり戻すか、またはハンドルバーを外側に切り戻してください。

重要：

スノーモビルの運転に十分習熟するまでは、高速走行をしないでください。

坂を上る

まず最初は傾斜のゆるやかな坂で練習します。スキルが上達して初めて、もっと難しい上り坂を練習してください。坂に近づくにつれて加速し、上り坂になる前にスロットルを戻してトラックのすべりを防止します。体重は常に坂の上に向けてかけておくことが大切です。体を前に傾けて坂を真っ直ぐに上ります。坂の勾配がきつくなるとフートレストに足を置いて立ち、ハンドルバーにかぶさるように体を前に倒します(「勾配を横断する」も参照)。



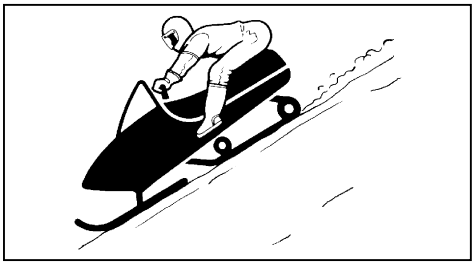
坂の頂上に近づくにつれて減速し、頂上の向こう側に障害物、急な下り坂、他の乗り物や人を見つけた場合に備えます。途中で坂を上れなくなったら、トラックをスピンさせてはいけません。エンジンを止め、パーキングブレーキをかけます。スノーモビルのリヤを引っぱって坂の下にスノーモビルを向けます。次いで坂の上側からスノーモビルに乗ります。エンジンを再始動し、パーキングブレーキを解除し、坂を下ります。

⚠警　告

サイドヒル（丘の横側）や急勾配は、初心者には勧められません。

坂を下る

坂を下る時は最低速度を保ってください。下っている間クラッチをつないでおくために必要なだけスロットルを開けることが大切です。こうすればエンジンの圧縮行程がスノーモビルの減速に役立ち、またスノーモビルが惰性で坂を下ることも防げます。またブレーキも軽く頻繁にかけてください。



⚠警　告

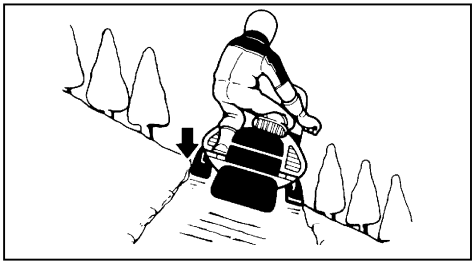
下りでブレーキをかける時には十分に注意してください。ブレーキを強くかけ過ぎるとドライブトラックがロックし、制御不能になります。

勾配を横断する

⚠警　告

勾配の横断は初心者には勧められません。

勾配を横断するには、体重な適切な位置にかけ適切なバランスを保つ必要があります。勾配を横断する時は体重が坂の上側にかかるように体を傾けます。坂の下側に位置する膝をシートに置き、坂の上側に位置する足をフートレストに置く姿勢がよいでしょう。こうすれば必要に応じて体重移動を楽におこなうことができます。



雪や氷は滑りやすいので、スノーモビルが横向きに滑った時に備えるようにしてください。そのような場合は、滑った方向に―その先に障害物がなければ―ハンドルを切ります。適切なバランスを回復したら、元の方向に徐々にハンドルを戻します。
曲がる時スノーモビルが転倒しかけた場合は、坂の下側にハンドルを切ってバランスを取るようにしてください。

⚠警　告

バランスが保てずスノーモビルが転倒しかけた場合は、直ちにスノーモビルから体を離し、坂の上側に避難してください。

氷の上、凍結面

氷の上や凍結面での運転は非常に危険になりがちです。転回、停止、発進のためのトラクションが雪よりはるかに小さいためです。

⚠警　告

氷の上または凍結面で運転しなければならない場合は、ゆっくりと慎重に走行してください。急加速、急転回、急ブレーキは避けてください。ハンドルの動きは最小限にしてください。制御不能になり、転倒する危険があります。

圧雪面

圧雪の上は、新雪と比べスキーとドライブトラックのトラクションが小さくなるため操縦がもっと困難です。急加速、急転回、急ブレーキは避けてください。

雪、氷以外の表面上での運転

雪、氷以外の表面ではスノーモビルを運転しないでください。そのような条件下での運転はスキーランナー、ドライブトラック、スライドランナー、ドライブスプロケットを傷めたり磨耗を早めます。次のような表面でのスノーモビルの運転は決しておこなわないでください。

- 泥
- 砂
- 岩
- 草
- 露出した舗装

この他、次のような表面も、ドライブトラック、スライドランナーを長持ちさせるため運転を避けてください。

- 鏡氷面
- 多量の泥と砂が混ざった雪

上に挙げた表面はみなドライブトラックとスライドランナーに関して一つの共通点があります。それは潤滑能力がほとんどない、あるいは全くない、ということです。ドライブトラックとスライドレール系全体はスライドランナーとスライドメタルとの間の潤滑（雪または水）を必要します。潤滑がおこなわれないとスライドランナーは短期間で磨耗し、ひどい場合には文字通り溶けてなくなり、ドライブトラックに損傷や故障が発生します。またトラクション増強のためのスタッドや滑り止めなども、トラックの損傷、故障をいっそうひどくする可能性があります。

⚠警　告

ドライブトラックが損傷・故障するとブレーキ能力が失われ、スノーモビルが制御できなくなり、事故を起こす恐れがあります。

- **スノーモビルを運転する時は必ずあらかじめドライブトラックを点検し、損傷、調整不良がないか調べてください。**
- **ドライブトラックが損傷していた場合スノーモビルは運転しないでください。**

⚠注　意

新雪の上を頻繁に走行するようにしてください。氷や圧雪の上で運転するとスライドランナーの磨耗が早くなります。

ドライブトラックを長持ちさせるには

トラックのテンション（張力）

最初のならしの期間、新しいドライブトラックはなじむ過程で伸びが早くなりがちです。トラックのテンションとアライメントの調整を欠かさず頻繁におこなってください（調整手順は、73ページを参照）。緩んだトラックは（ドライブスプロケットとの間で）スリップし、外れ、あるいはサスペンション部品を噛み込み、重大な損傷をもたらす恐れがあります。ドライブトラックはきつく張り過ぎないでください。さもないとトラックとスライドランナーとの摩擦が増大し、両方の部品の磨耗が早まります。またサスペンション部品への負荷が過大になり、故障の原因となります。

雪が少ない場合

ドライブトラックとスライドランナーは雪と水で潤滑・冷却されます。これら部品の過熱を防ぐため、雪が極端に少ない凍結路や、凍結した湖、河で長時間高速走行することは避けてください。
トラックの内部が過熱によって弱くなり、故障や損傷の原因となります。

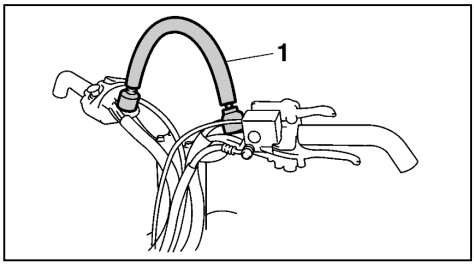
オフトレール走行

積雪が十分でない限りオフトレール走行は避けてください。岩、倒木など、堆積物を十分に覆う走行面ができるには、一般に1メートル程の積雪が必要です。積雪が不十分な場合、ドライブトラックへの衝撃による損傷を防ぐためトレールの外を走行しないでください。

スタッドトラック
スタッド付きのトラックは一般に短寿命です。ドライブトラックにスタッドホールを開けるため内部の繊維が切断され、トラックの強度が低下するためです。
ヤマハはトラックへのスタッド装着を推奨しません。

ストラップ

ストラップは、経験のあるライダーがサイドヒル（丘の斜面）を走る時のアシスト用にのみ使用するものです。



1. ストラップ

⚠警　告

ハンドルバーにストラップをかけるような誤った使い方をすると、重傷事故または死亡事故を起こす恐れがあります。

- **ストラップは、サイドヒル（丘の斜面）を走る時に、斜面の上側に体重を移動してバランスを取るために、ライダーのグリップポイントとして使用してください。ストラップが必要なほどの急勾配の斜面を走行するのは経験のあるライダーに限られます。**
- **斜面を走行する時、ライダーの右手はハンドルバーの右グリップを掴み、左手はストラップを掴んで体重を斜面の上側に移動してバランスを取るようにしてください。**
- **ストラップを使う時は、注意して運転してください。**
  ストラップを持ちながらの急加速や急減速は避けてください。
- **スノーモビルを持ち上げるためにストラップを使用しないでください。**
- **ストラップを荷物やアクセサリの固定用に使用しないでください。**

走行

⚠警　告

スノーモビルを運転する前に、必ず本書の7ページの「安全にご使用するにあたって」と、38ページの「スノーモビルに乗る場合」の項をお読みください。

要　点

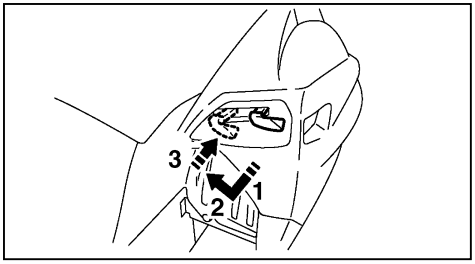
スノーモビルを運転する前に、エンジンの暖機運転をおこなってください。

⚠警　告

- **シフト操作は必ず、スロットルレバーを完全に放しスノーモビルが完全に停止した状態でおこなってください。**
- **シフトレバーは必ず“FWD”または“REV”の停止位置までスライドさせてください。またアイドリング回転時のみおこなってください。**
- **後退時は、スノーモビルの後方に障害物がないことを確認してください。後方に注意してください。**
- **後退する時は速度を落とし、急転回を避けてください。**

1. 目的の走行位置を選択するには、シフトレバーを引き出して“FWD”または“REV”の停止位置までスライドし、手を放してください。

1. 引き出す
2. “FWD”（前進）にスライドする
3. 放す



1. 引き出す
2. “REV”（後退）にスライドする
3. 放す

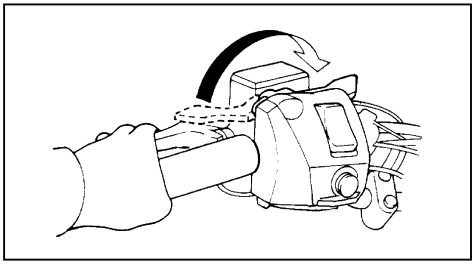
⚠注　意

スノーモビルが動いている時は、シフトレバーを“FWD”から“REV”に、または“REV”から“FWD”にシフトしないでください。そのようなシフトをおこなうと、駆動系が損傷する恐れがあります。

要　点

シフトレバーが「後退」の時は、「リバースブザー」が鳴ります。

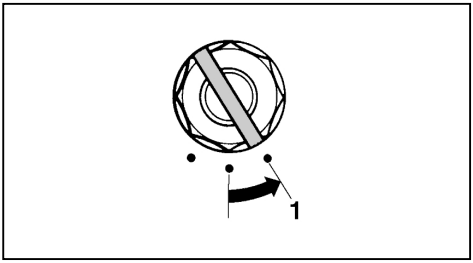
2. パーキングブレーキレバーを右に動かして、パーキングブレーキを解除します。



3. スロットルレバーをゆっくり押し込んで、スノーモビルを動かします。
4. 曲がりたい方向にハンドルバーを回します。
5. スノーモビルを停止するには、ブレーキレバーを握ります。
6. パーキングブレーキレバーを左に動かして、パーキングブレーキをかけます。

エンジン停止

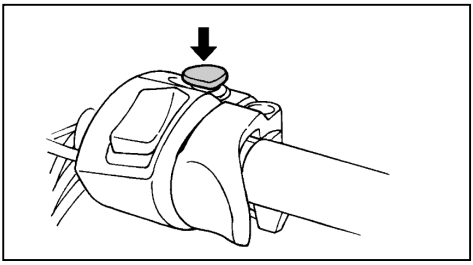
エンジンを停止するには、メインスイッチを“OFF”位置にしてください。



1. Off（オフ）位置

⚠警　告

- **エンジンを緊急停止させるには、エンジン停止スイッチを押してください。**
- **スノーモビルから離れる場合は、必ずメインスイッチのキーを抜き、スノーモビルが誤って発進しないようにしてください。**



輸送

スノーモビルをトレーラーやトラックで輸送する時は、損傷を避けるため次の注意事項を守ってください。

- スノーモビルを幌のないトレーラーやトラックで輸送する場合、スノーモビルにカバーをかけしっかりと固定してください。カバーは専用設計のものが最善です。カバーをかければ冷却用空気の取入口に異物が入らず、道路の小石がはねてスノーモビルを傷つけることも防げます。
- 道路に融雪剤が撒かれた区域を幌のないトレーラーやトラックで輸送する場合、オイルやその他防護剤を金属製サスペンションの表面に薄く塗ってください。腐食を防ぐ助けになります。目的地に着いたなら必ずスノーモビルを洗浄し、腐食性の融雪剤をきれいに落としてください。

定期点検

排ガス制御装置の定期点検チャート

	点検項目	点検内容	初期点検	日常点検
			1ヵ月 または 800 km 走行後 (40時間)	4ヵ月 または 4000 km 毎 (200時間)
	スパークプラグ	• 状態を点検する。 • スパークプラグギャップの調整と清掃。 • 必要に応じ交換する。		●
*	バルブクリアランス	• エンジンの冷間時に、バルブクリアランスの点検と調整をおこなう。	40000 km毎	
*	クランクケース・ブリーザーシステム	• ブリーザーホースのひび割れ、損傷の有無の点検。 • 必要に応じ交換する。		●
*	燃料フィルタ	• 状態を点検する。 • 必要に応じ交換する。		●
*	燃料ライン	• ホースのひび割れ、損傷の有無を点検。 • 必要に応じ交換する。		●
*	アイドリング回転数	• アイドリング回転数の点検と調整。	●	●
*	燃料噴射（FI）	• 同期調整。	●	●
*	排気系	• 漏れの有無を点検。 • 必要に応じ、ガスケットを増し締めまたは交換する。		●

* この点検項目はヤマハ販売店による整備を推奨します。

一般的な点検と潤滑チャート

	点検項目	点検内容	初期点検	日常点検
			1ヵ月 または 800 km 走行後 （40時間）	4ヵ月 または 4000 km 毎 （200時間）
	エンジンオイル	• 交換する（抜く前にエンジンを暖機すること）。	●	●
*	エンジンオイルフィルタカートリッジ	• 交換する。	●	日常点検 20000 km毎
*	冷却系	• クーラントレベルを点検する。 • 必要に応じ、冷却系のエア抜きをする。		●
*	プライマリークラッチ、セカンダリークラッチ	• つながり具合とシフト速度を点検する。 • 必要に応じて調整。		●
			走行高度が変わった時。	
		• シーブアセンブリの摩耗、損傷の有無を点検する。 • ウェイト、ローラー、ブッシングを検査。プライマリーの磨耗を点検。 • ランプシューズ、ブッシングを検査。セカンダリーの磨耗を点検。 • 必要に応じ交換する。		●
		• 指定グリースを給脂する。		●
*	ドライブチェーン	• チェーンの弛みを点検する。 • 必要に応じて調整。	使用開始から500 km走行後、以後800 km走行毎。	
*	ドライブチェーンオイル	• オイルレベルを点検する。	●	●
		• 交換する。		●
*	ブレーキ、パーキングブレーキ	• 遊びを調整し、必要に応じパッドを交換する。		●
		• ブレーキ液を交換する。	当チャートの注釈を参照。	
	コントロールケーブル	• 動作がスムーズか確認する。 • 必要に応じ、給脂する。		●
*	ディスクブレーキの取付け状態	• 過度の遊びがないか点検する。 • 必要に応じ、指定のグリースをシャフトに給脂する。	1,600 km毎	
*	スライドランナー	• 摩耗や損傷の有無を点検する。 • 必要に応じ交換する。		●
*	スキー、スキーランナー	• 摩耗や損傷の有無を点検する。 • 必要に応じ交換する。		●

	点検項目	点検内容	初期点検	日常点検
			1ヵ月 または 800 km 走行後 (40時間)	4ヵ月 または 4000 km 毎 (200時間)
*	ステアリング系	• スキーのトウアウトを点検する。 • 必要に応じて調整する。		●
*	ステアリングベアリング	• ベアリングアセンブリの弛みの有無を点検する。 • 指定グリースを給脂する。		●
*	スキー、 フロントサスペンション	• 指定グリースを給脂する。		●
*	リヤサスペンション	• 指定グリースを給脂する。		●
	取付金具、ボルト類	• すべてのナット、ボルトおよびねじが、正しいトルクで締め付けられているか確認する。 • 必要に応じ増し締めする。	●	●
*	バッテリ	• バッテリの状態を点検する。 • 必要に応じ充電する。		●

* この点検項目はヤマハ販売店による整備を推奨します。

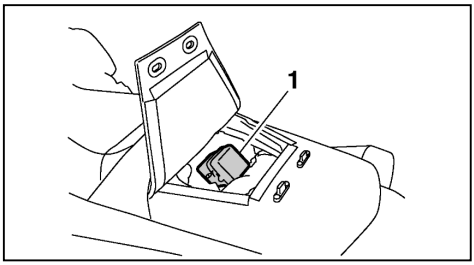
要　点

ブレーキ系統：

- マスターシリンダまたはキャリパーシリンダを分解した時は、ブレーキ液を必ず交換してください。
  通常はブレーキ液レベルを点検し、必要に応じブレーキ液を補充してください。
- マスターシリンダおよびキャリパーシリンダのオイルシールは、2年毎に交換してください。
- ブレーキホースは4年毎に、またはひび割や損傷が見つかった場合は直ちに交換してください。

ツールキット

ユーザー用ツールキットには、通常の定期点検や簡単な修理に十分な工具類が入っています。この他に、ナットやボルトを正しいトルクで締め付けるためにトルクレンチも必要です。



1. ツールキット

⚠注　意

エンジンを始動する前に、ツールキットがホルダにきちんと納められ、バンドで確実に固定されていることを確認してください。

要　点

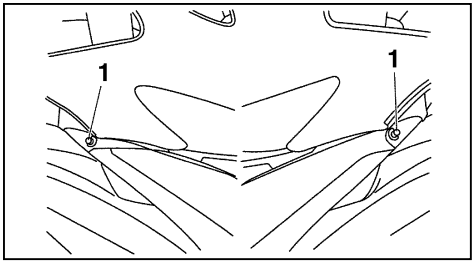
トルクレンチが必要な整備をトルクレンチなしでおこなった場合は、整備後にスノーモビルをヤマハ販売店に持ち込んでトルク点検を依頼し、必要ならトルクの調整を依頼してください。

シュラウドとカバーの取外しと取付け

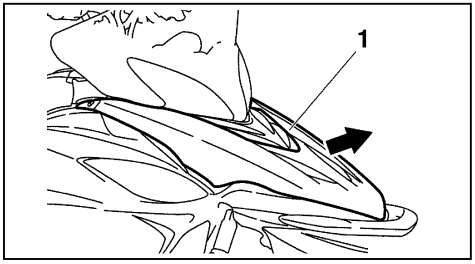
シュラウド

シュラウドを取り外す場合

ボルト類を緩め、シュラウドをゆっくり持ち上げてシュラウドステーからフックを外してください。



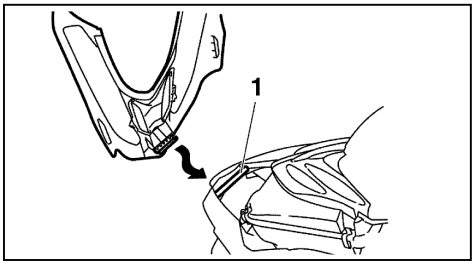
1. ボルト類



1. シュラウド

シュラウドを取り付ける場合

シュラウドの端をシュラウドステーのフックにかけ、シュラウドをゆっくりと元の位置まで下げて、ボルト類を締め付けてください。

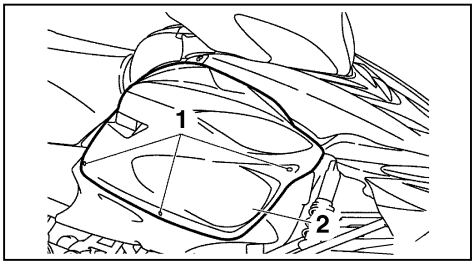


1. シュラウドステー

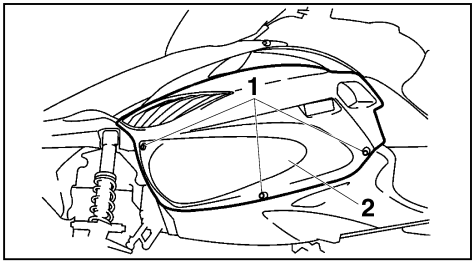
左右サイドカバー

サイドカバーを取り外す場合

ボルト類を緩め、サイドカバーを取り外してください。



1. ボルト類
2. 右側カバー



1. ボルト類
2. 左側カバー

サイドカバーを取り付ける場合

サイドカバーを元の位置に取り付け、ボルト類を締めて固定してください。

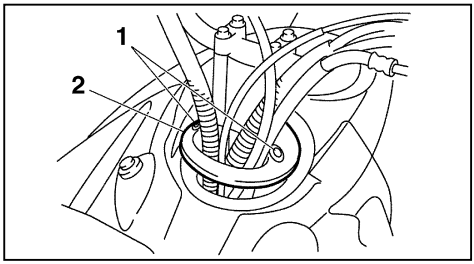
要　点

サイドカバー後部の突起部を、ロワサイドカバーの穴に合わせてください。

トップカバー

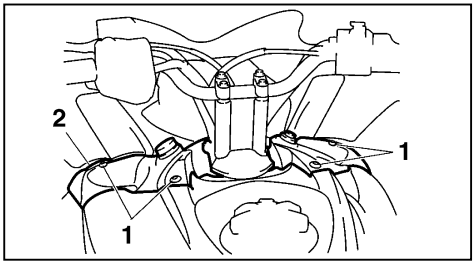
トップカバーを取り外す場合

1. ねじを取り外し、ケーブルガイドを取り外します。



1. ねじ
2. ケーブルガイド

2. ボルトを外し、メインスイッチカプラ、予備用DCアウトレットカプラの接続を外し、トップカバーを取り外します。



1. ボルト
2. トップカバー

トップカバーを取り付ける場合

1. メインスイッチカプラと予備用DCアウトレットカプラを接続し、トップカバーを元の位置に取り付け、ボルトを取り付けます。
2. 全てのケーブル類をケーブルガイドに通し、ケーブルガイドを元の位置に取り付け、ねじを取り付けます。

⚠警　告

- **シュラウドやカバーを固定していない状態、または取り外した状態では、スノーモビルを運転しないでください。**
- **シュラウドまたはカバーを外した状態でスノーモビルの整備をおこなう時は、回転部品に身体や着衣が触れないように特に注意してください。**
- **運転中および運転直後は、高温状態のマフラーやエンジンに接触しいように特に注意してください。**

⚠注　意

シュラウドやカバーを取り付ける前に、すべてのケーブルやリード線などが正しく接続されていることを確認してください。

要　点

シュラウドやカバーを取り付ける時は、固定具およびトップカバーのボルトを確実に締めて固定してください。

スパークプラグの点検

スパークプラグは重要なエンジン部品ですが、簡単に点検することができます。スパークプラグの状態はエンジンの状態を示します。

中心の電極を取り囲む白い磁器製の絶縁体の変色を点検してください。正常に運転されているスノーモビルなら、中程度～薄い小麦色が理想的な色です。これとは明らかに違う色だったなら、エンジンに何らかの異常があると考えられます。

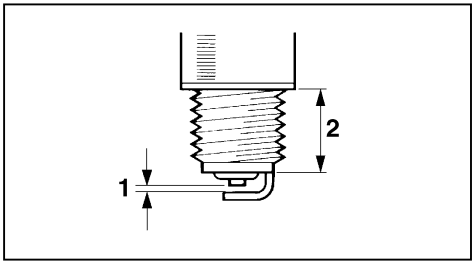
スノーモビルをヤマハ販売店に持ち込んで検査を、そして場合によっては修理を受けてください。

スパークプラグは熱と堆積物によって徐々に壊れ溶けて行きますので、定期的に取り外して点検してください。スパークプラグを別のタイプに変える場合はヤマハ販売店にご相談ください。

指定スパークプラグ：
メーカ名：
NGK
モデル番号：
CR9EB

スパークプラグにはねじ山部分の長さが異なる何種類かがあります。ねじ山の長さ、つまりリーチは、スパークプラグガスケットシートからねじ山部分末端までの長さを表します。リーチが長すぎるとエンジンがオーバーヒートしたり損傷したりする恐れがあります。リーチが短すぎるとスパークプラグが汚れたりエンジン性能が低下する可能性があります。また露出したねじ山部にカーボンが付着して燃焼室にホットスポットを形成し、ねじ山を損傷します。スパークプラグは必ず指定されたリーチのものを使用してください。

スパークプラグのリーチ：
19.0 mm



1. スパークプラグのギャップ
2. スパークプラグのリーチ

スパークプラグを取り付ける時はワイヤーシックネスゲージで電極ギャップを測定し、指定の数値に調整してください。

スパークプラグのギャップ：
0.7～0.8 mm

またスパークプラグを取り付ける時は必ずガスケット面を清掃してください。ねじ山に汚れがついていたら拭き取り、指定トルクでプラグを締めつけてください。

スパークプラグの締付けトルク：
12.5 Nm（1.25 m・kgf）

⚠注　意

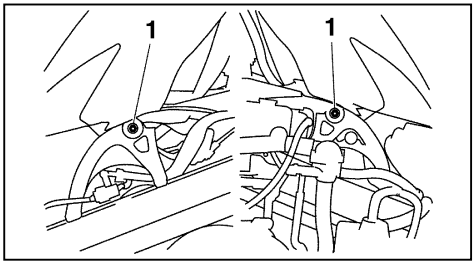
スパークプラグのキャップが確実に取り付けられていることを確認してください。確実に取り付けられていない場合、エンジンの振動でスパークプラグのキャップが損傷する可能性があります。

エンジンのアイドリング回転数の調整

⚠注　意

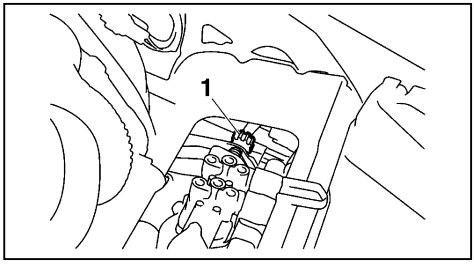
- **この調整は必ずヤマハ販売店に依頼してください。**
- **スロットルレバーがスムースに動くことを確認してください。**

1. シュラウド、左右サイドカバーおよびトップカバーを取り外します。（取外し手順は50ページを参照）。
2. エンジンを始動し暖気運転してください。
3. ヘッドライトユニットのボルトを外し、ヘッドライトユニットを持ち上げます。



1. ヘッドライトユニットのボルト

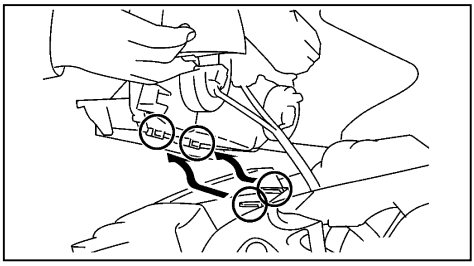
4. アイドリングスピード調整ねじを締めるか、または緩めて、エンジンのアイドリング回転数を調整します。



1. アイドリングスピード調整ねじ

標準のエンジンアイドリング回転数：
1400～1600 r/min

5. ヘッドライトユニットを取り付けます。ヘッドライトユニットステーの突起はヘッドライトユニット底部の溝に挿入されているか確認してください。



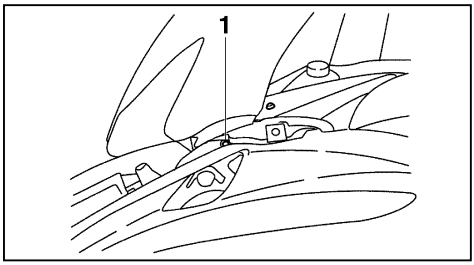
6. ヘッドライトユニットのボルトを取り付け、指定のトルクで締め付けます。

ヘッドライトユニットのボルトの締付けトルク： 3 Nm（0.3 m・kgf）

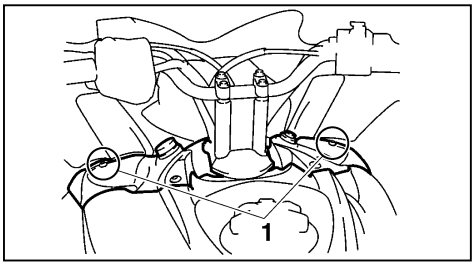
7. トップカバー、左右サイドカバーおよびシュラウドを取り付けます。

スロットルケーブルの遊びの調整

1. シュラウドを取り外します（取外し手順は50ページを参照）。
2. スノーモビルの両サイドからヘッドライトユニットのボルトを外し、図に示すトップカバーのボルトを外します。

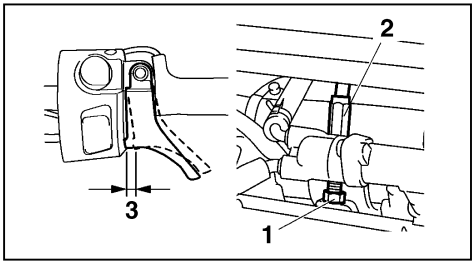


1. ヘッドライトユニットのボルト



1. ボルト

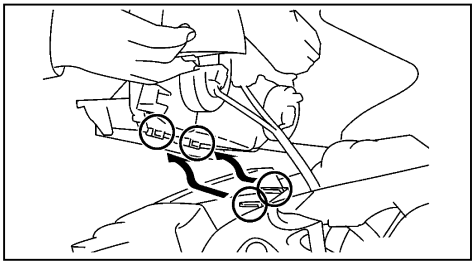
3. スピードメータカプラおよびヘッドライトカプラの接続を外し、ヘッドライトユニットを取り外します。
4. ロックナットを緩めます。
5. 指定されたスロットルケーブルの遊びになるまで、調整用ボルトを締めるか緩めます。



1. ロックナット
2. スロットルケーブルの遊びの調整ボルト
3. スロットルケーブルの遊び

スロットルケーブルの遊び：
2.0～3.0 mm

6. ロックナットを締め付けてください。
7. スピードメータカプラおよびヘッドライトカプラを接続し、ヘッドライトユニットを取り付けます。ヘッドライトユニットステーの突起がヘッドライトユニット底部の溝に挿入されているか確認してください。



8. ヘッドライトユニットのボルトを取り付け、指定のトルクで締めます。

ヘッドライトユニットのボルトの
締付けトルク：
3 Nm（0.3 m・kgf）

9. トップカバーのボルトを取り付けます。
10. シュラウドを取り付けます。

緊急安全装置

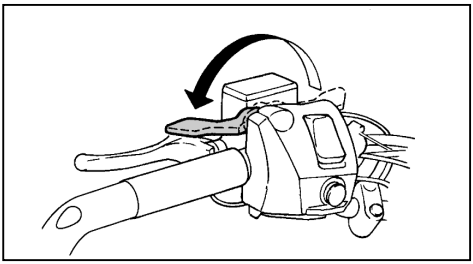
スロットルオーバーライドシステム（T.O.R.S.）の点検

T.O.R.S.が適切に動作するか点検してください。

▲警　告

T.O.R.S.を点検する時は：

- **パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。**
- **スロットルレバーがスムースに動くことを確認してください。**
- **クラッチが回転し始めるまでエンジンの回転数を上げないでください。さもないとスノーモビルが急発進して、事故を起こす恐れがあります。**

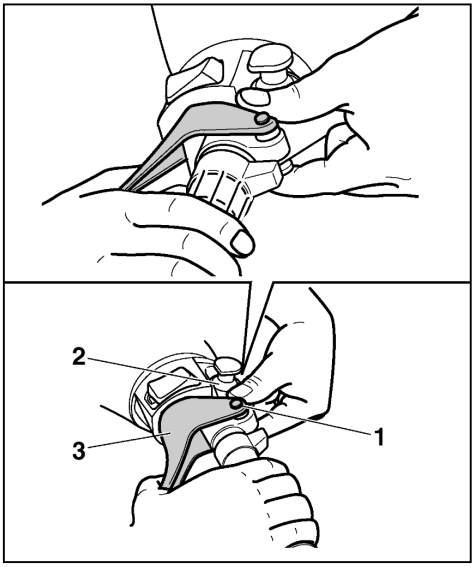


1. エンジンを始動してください。

要　点

37ページの「エンジンの始動」の項を参照してください。

2. スロットルレバーの回転軸とエンジン停止スイッチハウジングの間を親指（上側）と人指し指（下側）で挟み、スロットルレバーの回転軸をスロットルスイッチから離してください。
この状態を保ったまま、スロットルレバーを徐々に押してください。



1. スロットルレバーの回転軸
2. エンジン停止スイッチハウジング
3. スロットルレバー

T.O.R.S.が動作し、エンジンをクラッチが接続される回転数以下にします。

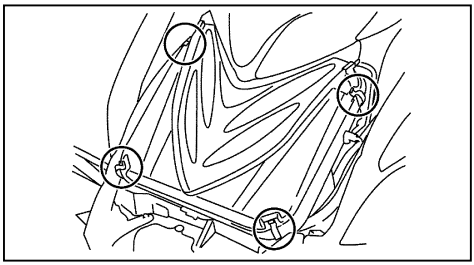
⚠警　告

クラッチが接続される回転数以下にエンジン回転数が下がらない場合は、メインスイッチをOFFにしてエンジンを止め、ヤマハ販売店にご相談ください。

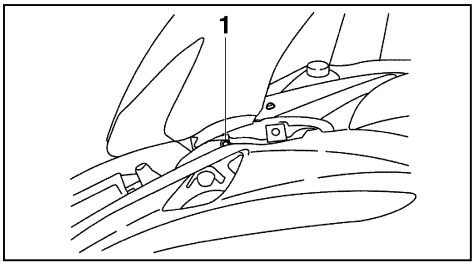
エアフィルタの点検

エアフィルタ部品フレームの下側に残雪がないか、点検してください。

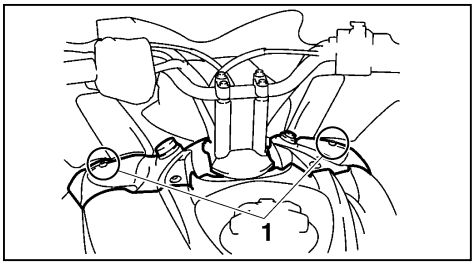
1. シュラウドを取り外します（取外し手順は50ページを参照）。
2. エアフィルタケースカバーのボルト類を外します。



3. スノーモビルの両サイドからヘッドライトユニットのボルトを外し、図に示すトップカバーのボルトを外します。

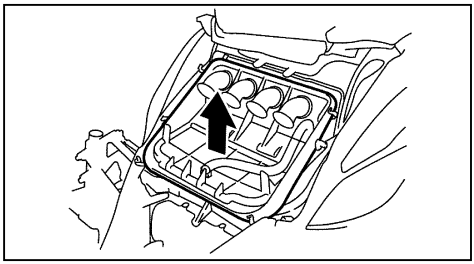


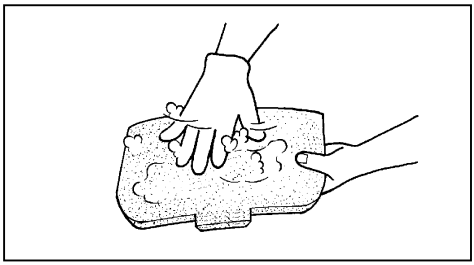
1. ヘッドライトユニットのボルト



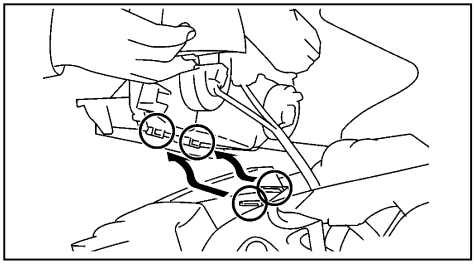
1. ボルト

4. ヘッドライトユニットを少し持ち上げ、エアフィルタケースカバーを取り外します。
5. エアフィルタエレメントフレームを持ち上げ、エアフィルタエレメントを点検してください。エアフィルタ部品に残雪がある場合は、エアフィルタ部品を取り外し、残雪をブラシで取り除き、エアフィルタ部品を取り付けます。





6. エアフィルタ部品フレームを元の位置に取り付け、エアフィルタケースカバーを取り付けます。
7. 固定具のフックを掛けて、エアフィルタケースカバーを取り付けます。
8. ヘッドライトユニットを取り付けます。ヘッドライトユニットステーの突起はヘッドライトユニットの底部の溝に挿入してください。



9. ヘッドライトユニットのボルトを取り付け、指定のトルクで締めます。

ヘッドライトユニットのボルトの締付けトルク：
3 Nm（0.3 m・kgf）

10. トップカバーのボルトを取り付けます。
11. シュラウドを取り付けます。

要　点

スノーモビルで走行した後は、エアフィルタ部品フレームの下側に残雪がないか確認してください。

標高の高い場所で走行する場合の設定

ガソリンエンジンは標高が305 m上がる毎に、性能が約3%低下します。これは標高が高くなるにつれ空気が薄くなるためです。空気が薄くなれば燃焼に必要な酸素も少なくなります。
当スノーモビルは電子燃料噴射システムを内蔵し、最適な混合比のエアと燃料をエンジンに送ります。従って、標高の高い場所で走行する場合でも、電子燃料噴射システムの調整は不要です。

重要：
空気が薄く標高が高くなると、適切なエア/燃料の混合比でも馬力は低下します。加速も最高速度も低下すると考えてください。
標高の高いところでの馬力低下を克服するため、さらにドライブチェーンギアとVベルトクラッチの調整を変更し、性能低下と急速な磨耗を回避することが必要なこともあります。スノーモビルをお買い求めの場所とは標高が異なる場所で運転する場合は、必ずヤマハ販売店にご相談ください。その標高のために何らかの変更が必要かどうか、ヤマハ販売店から説明があります。

⚠注　意

900 mより高い標高で運転する場合は、ドライブチェーンのギアとVベルトクラッチの調整が必要です。これについてはヤマハ販売店にご相談ください。

バルブクリアランス

バルブクリアランスは、スノーモビルの使用に従って変化するため、結果としてエアと燃料の混合比やエンジンノイズの異常が起こります。これらを防ぐには、定期点検チャートに示された周期で、バルブクリアランスをヤマハ販売店で調整する必要があります。

エンジンオイルと、オイルフィルタカートリッジ

エンジンオイルのレベルは、スノーモビルを使用する度に点検する必要があります。また、定期点検および潤滑チャートに指定された周期で、エンジンオイルとオイルフィルタカートリッジを交換してください。

⚠警　告

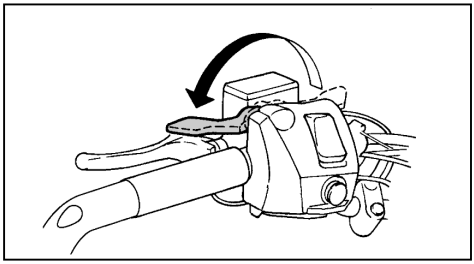
エンジンを止めた直後は、エンジンオイルが非常に高温になっています。高温状態のエンジンオイルに触れたり、衣服にかかったりすると火傷する恐れがあります。

⚠注　意

- **オイルタンク内のオイルが多すぎる状態、または少なすぎる状態でエンジンを回さないでください。エンジンオイルが噴き出したり、エンジンが損傷する恐れがあります。**
- **エンジンオイルは走行距離が800 kmに達した時点で交換し、それ以降は4000 km毎に、またはシーズンが始まる前に交換してください。エンジンオイルの交換時期が遅れると、エンジンの摩耗が早まることになります。**
- **オイルフィルタカートリッジは、20000 km毎に交換してください。オイルフィルタカートリッジはヤマハ販売店で交換して下さい。**

エンジンオイルレベルの点検方法

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけてください。

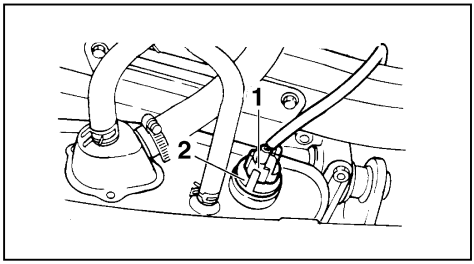


2. エンジンを始動し、10～15分間ほどアイドリング運転してから、エンジンを止めてください。

要　点

- エンジンの暖機は、スノーモビルを10～15分間走行させておこなうこともできます。
- スノーモビルの運転後、エンジンを少なくとも10秒間アイドリングさせてから、エンジンを止めてください。

3. シュラウドと右側カバーを外します。（取外し手順は50ページを参照）。
4. オイルレベルゲージカプラを外します。

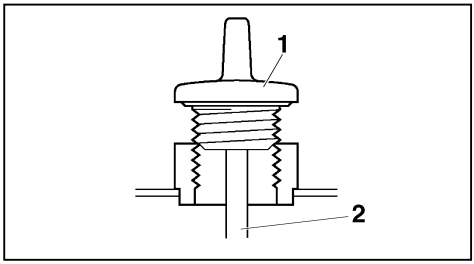


1. オイルレベルゲージカプラ
2. オイルフィラーキャップ

⚠注　意

オイルフィラーキャップを外す前にオイルレベルゲージカプラを外してください。もしゲージカプラを外さなければ、ケーブルがねじれたり、破断する可能性があります。

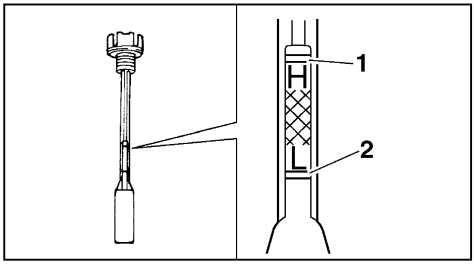
5. オイルフィラーキャップを外し、ディップスティックを拭いてきれいにし、それを元のオイルフィラーホールに差し込み（但し、差し込むだけで、ねじ込まないこと）、もう一度外してオイルレベルを確認してください。



1. オイルフィラーキャップ
2. ディップスティック

要　点

エンジンオイルは、ディップスティックの“H”と“L”レベルの間でなければなりません。



1. “H”レベルのマーク
2. “L”レベルのマーク

6. エンジンオイルが“L”レベルのマークより低い場合は、十分な量の推奨エンジンオイルを補充してオイルが“H”レベルのマーク位置になるようにしてください（推奨エンジンオイルについては、61ページを参照）。

▲注　意

- **エンジンオイルを補充する時は、ディップスティックの“H”レベルのマークより上にならないように注意してください。**
- **4ストローク用エンジンオイルのみを使用してください。**
- **エンジンオイルタンク内に異物が混入しないように注意してください。**

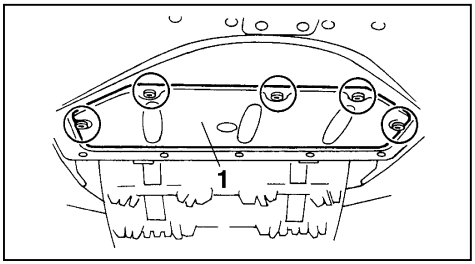
7. ディップスティックをオイルフィラーホールに差し込み、オイルフィラーキャップを締めてください。
8. オイルレベルゲージカプラを接続してください。
9. 右側カバーとシュラウドを取り付けます。

エンジンオイルの交換方法（オイルフィルタカートリッジを交換しない場合）

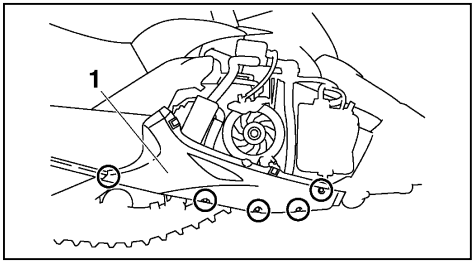
要　点

エンジンオイルの交換は、ヤマハ販売店に依頼されることを推奨します。

1. スノーモビルを平坦な場所に止め、パーキングブレーキをかけてください。
2. エンジンを始動し、数分間ほど暖機運転してから、エンジンを止めてください。
3. シュラウドと右側カバーを外します。（取外し手順は50ページを参照）。
4. ボトムパネルと右下側カバーを取り外してください。

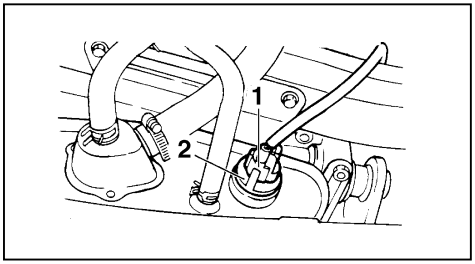


1. ボトムパネル



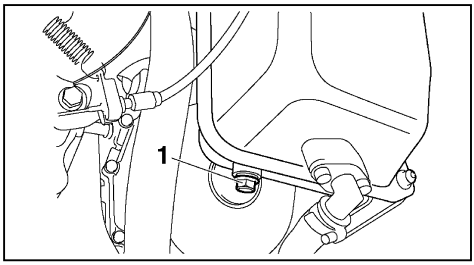
1. 右下側カバー

5. オイルタンクの下側にオイルパンを置き、使用済みのエンジンオイルを排油してください。
6. オイルレベルゲージカプラを外してください。



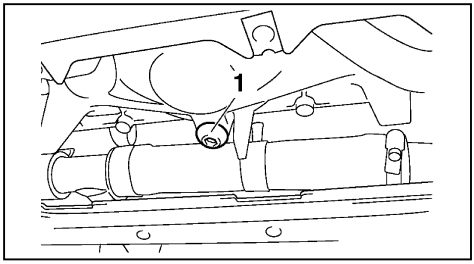
1. オイルレベルゲージカプラ
2. オイルフィラーキャップ

7. オイルフィラーキャップとドレンボルトを外し、オイルタンク内のエンジンオイルを排油してください。



1. エンジンオイルドレンボルト（オイルタンク）

8. エンジンの下側にオイルパンを置き、使用済みのエンジンオイルを排油してください。
9. エンジンオイルドレンボルトを外して、クランクケース内のエンジンオイルを排油してください。



1. エンジンオイルドレンボルト（クランクケース）

要　点

使用済みのエンジンオイルは、法令に従って廃棄してください。

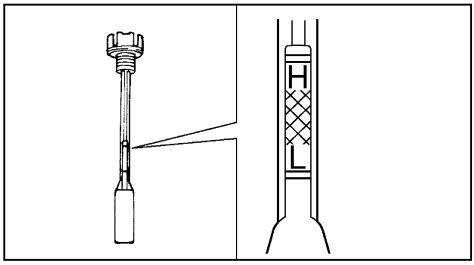
10. エンジンオイルドレンボルトを取り付けた後、それぞれのボルトを指定のトルクで締め付けてください。

締付けトルク：
エンジンオイルドレンボルト（クランクケース）：
30 Nm（3.0 m・kgf）
エンジンオイルドレンボルト（オイルタンク）：
16 Nm（1.6 m・kgf）

11. 推奨エンジンオイルを2.0 Lほどオイルタンクに補充し、オイルフィラーキャップを締めて固定してください。

推奨エンジンオイル：
スノーオイル R-FORCE
SAE 0W-30
オイル量：
オイルフィルタカートリッジを交換した場合：
3.0 L
オイルフィルタカートリッジを交換しなかった場合：
2.8 L
総量：
3.8 L

12. エンジンを始動し、数分間ほど暖機運転してから、エンジンを止めてください。
13. ディップスティックの“H”レベルのマークの位置まで、推奨エンジンオイルを補充してください（点検手順については上記の説明を参照）。



⚠注　意

- **エンジンオイルを補充する時は、ディップスティックの“H”レベルのマークより上にならないように注意してください。**
- **4ストローク用エンジンオイルのみを使用してください。**
- **エンジンオイルタンク内に異物が混入しないように注意してください。**

14. エンジンを始動し、数分間ほど暖機運転しながら、エンジンオイルの漏れがないことを確認してください。オイル漏れがある場合は、直ちにエンジンを止め、エンジンオイルドレンボルト、オイルタンクドレンボルト、およびオイルフィラーキャップが正しく取り付けられているか確認してください。
15. エンジンを止めて、オイルレベルゲージカプラを接続してください。
16. ボトムパネルと右下側カバーを取り付けてから、右側カバーとシュラウドを取り付けます。

⚠注　意

オイル漏れがある場合、またはエンジン回転時にオイルレベル警告灯が点灯した場合は、直ちにエンジンを止めて、ヤマハ販売店でスノーモビルの点検をおこなってください。上記のような状態でエンジンを回し続けると、エンジンに深刻な障害が発生する原因になります。

冷却系

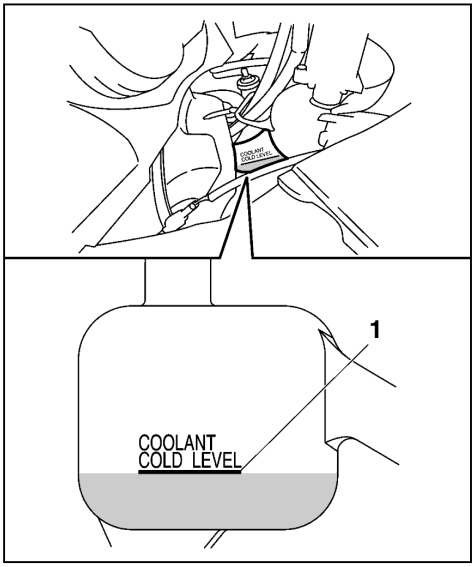
スノーモビルに乗る時は、毎回クーラントレベルを点検してください。また、冷却系のエア抜きを、定期点検および潤滑チャートに指定された周期で実施してください。

⚠警　告

エンジンが高温状態の時は、クーラントリザーバキャップを決して外さないでください。加圧状態になっている非常に高温のラジエータ液が噴き出して、大やけどを負う恐れがあります。
エンジンが冷えてから、ウエスまたはタオルをクーラントリザーバキャップにかぶせ、リザーバキャップを左回り（反時計回り）に、止まる位置までゆっくり回してください。これにより、ラジエータ液の残留圧が抜けます。
シューという音が消えたら、クーラントリザーバキャップを左回りに回しながら押し込んで、リザーバキャップを外します。

クーラントレベルの点検方法

1. トップカバーを取り外してください（取外し手順は51ページを参照）。
2. エンジンが冷えてから、クーラントリカバリタンク内のクーラントレベルを点検します。クーラントレベルが“COLD LEVEL”マークより低い場合は、“COLD LEVEL”マーク位置に達するまで軟水を補充してください（詳細は、「クーラントの補充」の項の指示に従ってください）。



1. “COLD LEVEL”マーク

⚠注　意

- **硬水や塩水は、エンジン部品に有害です。軟水が入手できない場合は、沸騰させ（冷ました）水または蒸留水を使用できます。**
- **緊急時は、水道水を一時的に使用することができます。**

冷却系統のエア抜き

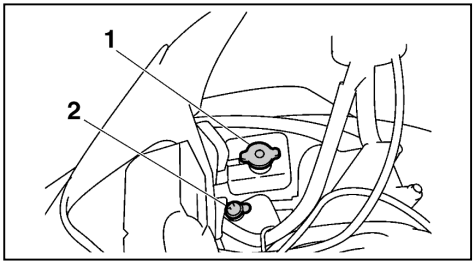
クーラントリザーバが空になった場合、冷却系統内のエア混入が疑われる場合、または冷却系統の漏れが見つかった場合は、冷却系統のエア抜きをおこなう必要があります。これについてはヤマハ販売店にご相談ください。

⚠注　意

エア抜きが不十分な状態でエンジンを回し続けると、エンジンがオーバーヒートしたり、エンジンに深刻な障害を引き起こす恐れがあります。

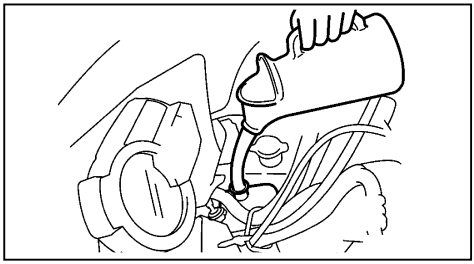
クーラントの補充方法

1. トップカバーを取り外してください（取外し手順は51ページを参照）。
2. クーラントリザーバキャップを外して推奨のクーラントをリザーバに補充し、キャップを取り付けます。



1. クーラントリザーバキャップ
2. クーラントリカバリタンクキャップ

3. クーラントリカバリタンクキャップを外し、推奨のクーラントを“COLD LEVEL”マークの位置まで補充し、キャップを取り付けます。



推奨不凍液：
　さび止め剤を含有した高品質のエチレングリコール不凍液
不凍液と水の混合比：
　3：2
総量：
　6.40 L

4. エンジンを始動し、数分間ほど暖機運転してから、エンジンを止めてください。
5. クーラントリザーバを点検します。満タンでない場合は、クーラントリザーバキャップを外して推奨のクーラントをリザーバに補充し、キャップを取り付けます。
6. クーラントの漏れの有無を点検してください。

要　点

クーラントの漏れがある場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

7. トップカバーを取り付けてください。

Vベルト

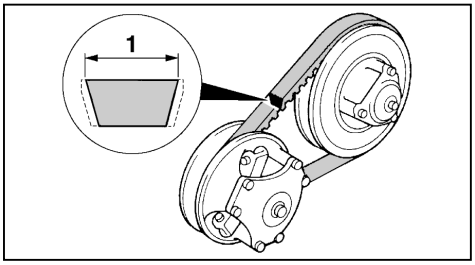
⚠警　告

- **スノーモビルを運転する時は、あらかじめドライブガードがしっかりと締まっていることを確認してください。**
- **Vベルトやドライブガードを外した状態では、決してエンジンを回転させないでください。**

スノーモビルに乗る時は、毎回Vベルトを点検してください。

Vベルトの点検方法

1. シュラウドと左側カバーを取り外し、ドライブガードを取り外します。
   （取外し手順は50ページを参照）。
2. Vベルトに磨耗や損傷がないか点検してください。
   必要に応じ交換する。



1. Vベルトの摩耗限度

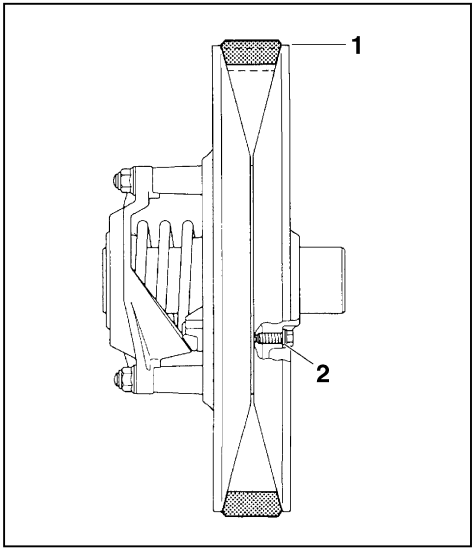
新しいVベルトの幅：
34.1 mm
Vベルトの摩耗限度幅：
32.5 mm

3. ドライブガードを取り付け、左側カバーとシュラウドを取り付けます。

Vベルトの交換と調整方法

⚠警　告

- **Vベルトやドライブガードを外した状態では、決してエンジンを回転させないでください。**
- **新しいVベルトを取り付ける時は、正しい位置に確実に取り付けられていることを確認してください。正しく取り付けられていない場合、Vベルトで回転するクラッチスピードが変化し、エンジンを始動した時にスノーモビルが予期しない動きをして、事故の原因になる恐れがあります。**
- **この調整はヤマハ販売店に依頼してください。**



1. セカンダリーシーブアセンブリのエッジ部
2. スペーサ

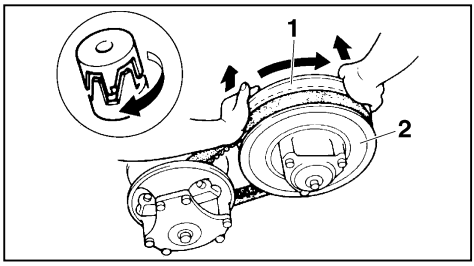
⚠注　意

Vベルトが磨耗するにつれ、調整が必要になることがあります。正しいクラッチ性能を確保するために、Vベルトの位置が、セカンダリーシーブアセンブリのエッジ部の下から1.5 mmの位置になったら、各調整ボルトにスペーサを追加してVベルトの位置を調整してください。
この調整はヤマハ販売店に依頼してください。

要　点

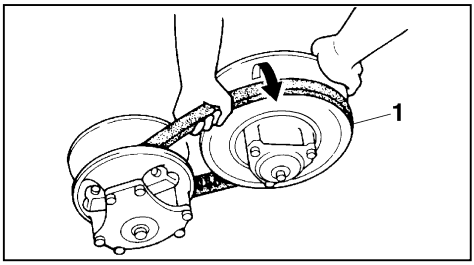
Vベルトを交換する時はあらかじめパーキングブレーキをかけてください。

1. シュラウドと左側カバーを取り外し、ドライブガードを取り外します。
   （取外し手順は50ページを参照）。
2. セカンダリースライディングシーブを右回り（時計回り）に回し、セカンダリー固定シーブから分離するよう押し出してください。



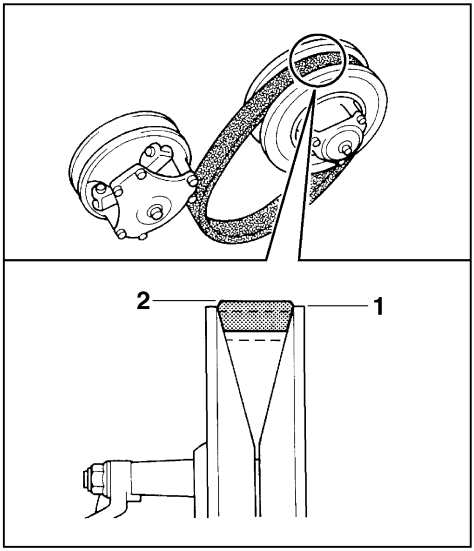
1. セカンダリースライディングシーブ
2. セカンダリー固定シーブ

3. Vベルトを引っ張り上げてセカンダリー固定シーブから外してください。



1. Vベルト

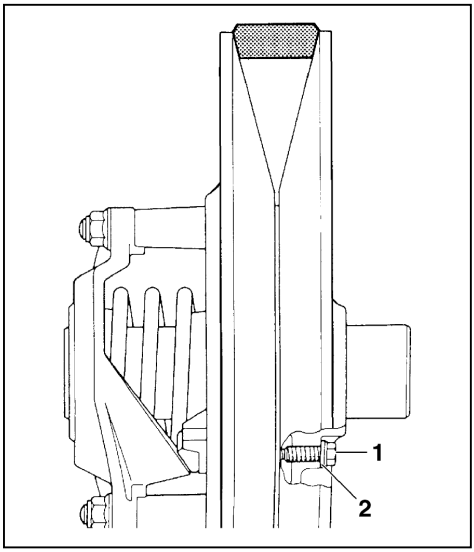
4. Vベルトをセカンダリー、プライマリー両方のシーブアセンブリから外してください。
5. 新しいVベルトをセカンダリーシーブアセンブリだけに取り付けてから、Vベルトの位置を測定します。.Vベルトを両方のシーブ間に押し込まないでください。セカンダリーのスライディングシーブと固定シーブとは互いに接触していなければなりません。



1. セカンダリーシーブアセンブリのエッジ部
2. Vベルトの位置

Vベルトの標準位置：
セカンダリーシーブアセンブリのエッジ部の上側1.5 mmから、エッジ部の下側0.5 mmの間

6. Vベルトの位置が正しくない場合は、それぞれのVベルト位置調整ボルトのスペーサを減らすか、追加してVベルトの位置を調整します。



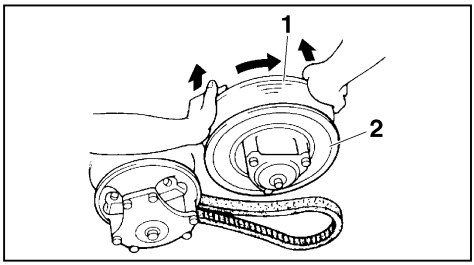
1. Vベルト位置調整ボルト
2. スペーサ

Vベルトの位置	調　整
エッジ部の上側 1.5 mm以上	スペーサを減らす
エッジ部の上側1.5 mmから、エッジ部の下側0.5 mmの間	調整不要 （正しい位置です。）
エッジ部の下側 0.5 mm以上	スペーサを追加する

7. Vベルト位置調整ボルトを締め付けます。

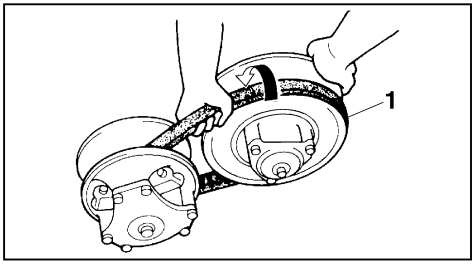
Vベルト位置調整ボルトの締付けトルク： 10 Nm（1.0 m・kgf）

8. Vベルトをプライマリーシーブアセンブリに取り付けます。
9. セカンダリースライディングシーブを右回り（時計回り）に回し、セカンダリー固定シーブから分離するよう押し出してください。



1. セカンダリースライディングシーブ
2. セカンダリー固定シーブ

10. Vベルトをセカンダリースライディングシーブと固定シーブの間に取り付けます。



1. Vベルト

11. ドライブガードを取り付け、左側カバーとシュラウドを取り付けます。

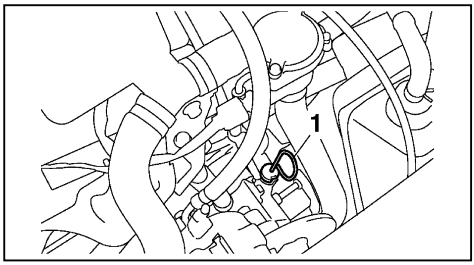
ドライブチェーンハウジング

⚠警 告

エンジン回転直後は、エンジン本体、オイルタンク、ブレーキディスク、およびクーラントホースが非常に高温になっています。点検や修理をおこなう時は、高温状態のこれらのパーツに身体や衣服が接触しないようにしてください。

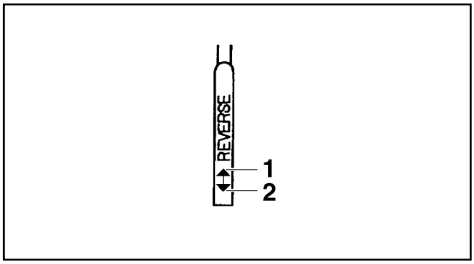
ドライブチェーンハウジングのオイルレベルの点検方法

1. スノーモビルを平坦な場所に停止させてください。
2. シュラウドと右側カバーを外します。(取外し手順は50ページを参照)。
3. ディップスティックを外し、きれいなウエスでオイルを拭き取り、再びオイルフィラーホールに差し込んでください。

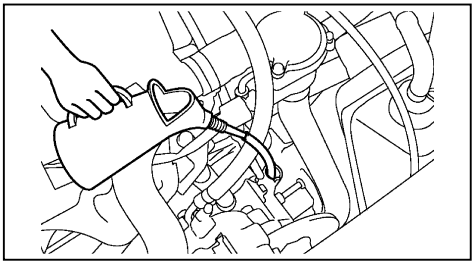


1. ディップスティック

4. ディップスティックを取り出し、オイルレベルが最大レベルと最小レベルのマークの間にあることを確認します。エンジンオイルが最小レベルのマークより低い場合は、十分な量の推奨オイルを補充してオイルが最大レベルのマーク位置になるようにしてください。



1. 最大レベルのマーク
2. 最小レベルのマーク

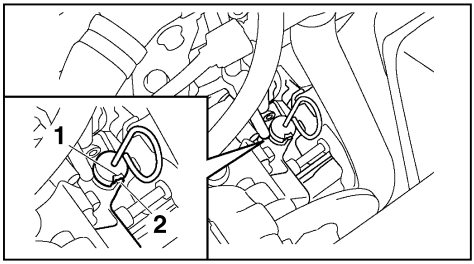


推奨ドライブチェーンオイル：
SAE 75Wまたは80W API GL-3
ギヤオイル

▲注　意

ドライブチェーンハウジングに異物が入らないようにしてください。

5. ディップスティックを取り付け、ディップスティックハンドルのノッチ部をドライブチェーンハウジングの突起部に合わせてください。

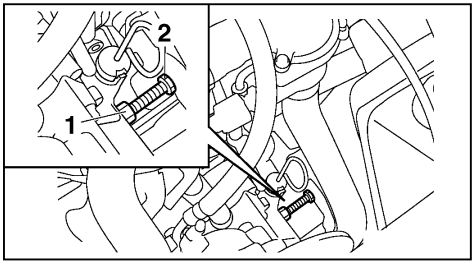


1. ノッチ部
2. 突起部

6. 右側カバーとシュラウドを取り付けます。

チェーンのテンション調整

1. シュラウドと右側カバーを外します。（取外し手順は50ページを参照）。
2. ロックナットを緩めます。
3. チェーンテンション調整ボルトを、右回り（時計回り）に手で締まる程度に締め付けてから、1/4回転ほど戻してください。
4. チェーンテンション調整ボルトを動かさずに、ロックナットを締めて固定してください。



1. ロックナット
2. チェーンテンション調整ボルト

5. 右側カバーとシュラウドを取り付けます。

ブレーキ、パーキングブレーキ

⚠警　告

- **ブレーキレバーを握った時やわらかくスポンジのような感触があるなら、ブレーキ系に故障があります。**
- **その場合スノーモビルは運転しないでください。**
  ブレーキがかからず、事故を起こす恐れがあります。ヤマハ販売店にブレーキ系の点検と修理を依頼してください。

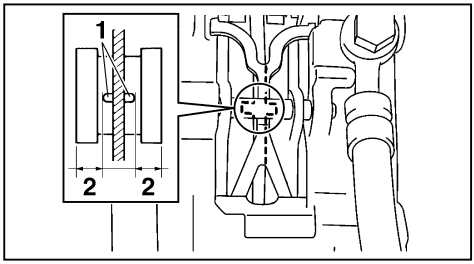
⚠注　意

ブレーキレバーの端はハンドルバーの端より外に突出させないでください。
そうすればスノーモビルを整備のため横位置にした場合もブレーキレバーを傷めません。

発進する時は低速でブレーキをテストし、適切に動作することを確認してください。ブレーキ性能が適正でなかった場合、ブレーキの磨耗、あるいはブレーキ液の漏れを点検してください（詳細については以下の項を参照）。

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの磨耗の程度を点検してください。
ブレーキパッドが磨耗限度に達している場合は、ヤマハ販売店に交換を依頼してください。

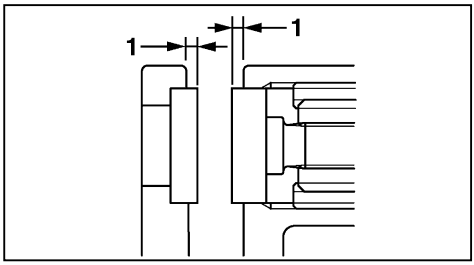


1. ブレーキパッドの磨耗インジケータ
2. ブレーキパッドの磨耗限度

ブレーキパッドの磨耗限度：
4.7 mm

パーキングブレーキパッドの点検

パーキングブレーキパッドの厚さを測定して、磨耗の程度を点検してください。パーキングブレーキパッドが磨耗限度に達している場合は、ヤマハ販売店に交換を依頼してください。



1. パーキングブレーキパッドの摩耗限度

パーキングブレーキパッドの
摩耗限度：
1.2 mm

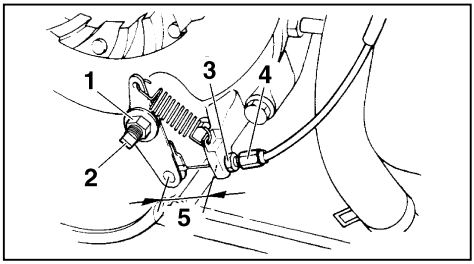
パーキングブレーキの調整方法

パーキングブレーキパッドの磨耗が進むにつれ、正規のブレーキ性能を保つために調整が必要になります。

⚠警　告

この調整は必ずヤマハ販売店に依頼してください。

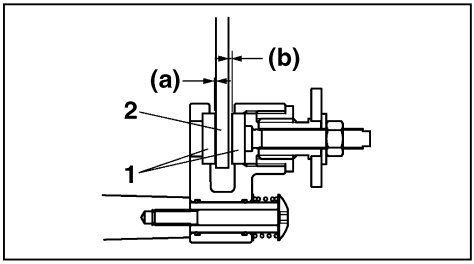
1. パーキングブレーキパッドのロックナットと、パーキングブレーキパッド調整ボルトを緩めてください。
2. パーキングブレーキケーブルのロックナットを緩めてください。
3. パーキングブレーキケーブル調整ボルトを回して、ケーブルの長さを調整してください。



1. パーキングブレーキパッドのロックナット
2. パーキングブレーキパッド調整ボルト
3. パーキングブレーキケーブルのロックナット
4. パーキングブレーキケーブル調整ボルト
5. パーキングブレーキケーブルの長さ

パーキングブレーキケーブルの長さ：
43.5～46.5 mm

4. パーキングブレーキケーブルのロックナットを締め付けてください。
5. パーキングブレーキパッド調整ボルトを回して、パーキングブレーキパッドとブレーキディスク間のクリアランス（隙間）を調整してください。



1. パーキングブレーキパッド
2. ブレーキディスク

パーキングブレーキパッドと
ブレーキディスク間のクリアランス、
(a) + (b) ：
1.5～2.0 mm

6. パーキングブレーキパッドのロックナットを締め付けてください。

ブレーキ液のレベル点検

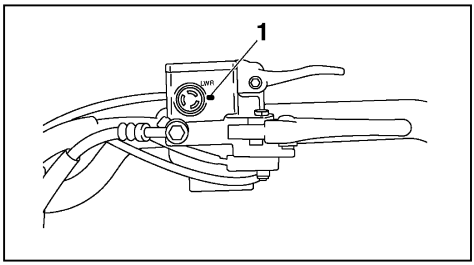
⚠警　告

補充する時マスターシリンダに水が入らないよう注意してください。水はブレーキ液より沸点がかなり低く、ベーパーロックを引き起こす恐れがあります。
ブレーキ液レベルが低下する場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

⚠注　意

ブレーキ液は塗装面やプラスチック部品を劣化させることがあります。ブレーキ液をこぼさないでください。
こぼれた場合はすぐに洗浄してください。

スノーモビルを平坦な場所に停止させてください。
ブレーキ液が下限レベル以上であることを確認し、必要なら補充してください。



1. 下限レベル

指定ブレーキ液：
DOT 4

ブレーキ液の交換

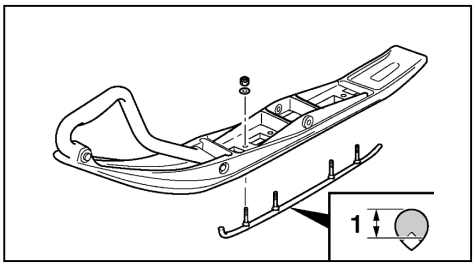
⚠警　告

ブレーキ液と上記部品の交換は必ずヤマハ販売店に依頼してください。

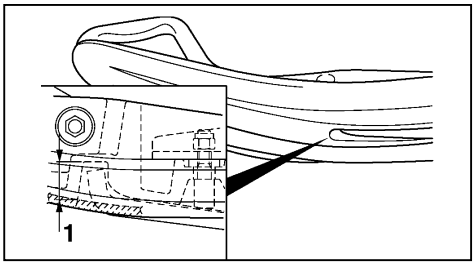
定期点検で下記の部品を交換する場合、あるいはこれら部品に損傷や漏れが見つかった場合、ブレーキ液の交換が必要です。
- マスターシリンダおよびキャリパーシリンダのオイルシール全部
- ブレーキホース

スキー、スキーランナー

スキーとスキーランナーに磨耗や損傷がないか点検してください。必要に応じ交換する。



1. スキーランナーの磨耗限度



1. スキーの磨耗限度

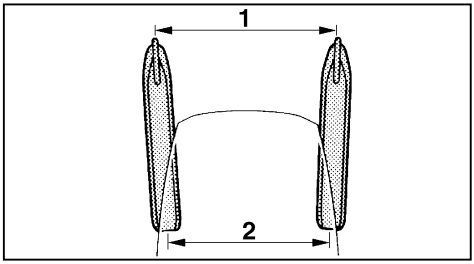
スキーランナーの磨耗限度：
8 mm
スキーの摩耗限度：
24 mm

⚠注　意

スノーモビルに荷物を積み込み・積み下ろす時、雪が少ないか全くない場所を走行する時、あるいはコンクリート、縁石などの上を走行する時、スキーに引っかき傷をつけないでください。
ひっかき傷はスキーを磨耗・損傷させます。

スキーのアライメント調整

1. ハンドルバーを操作してスキーをまっすぐ前方に向けてください。
2. 次の点検をおこなってスキーのアライメントを調べてください。
   - スキーは前方を向いているか。
   - スキーのトウアウト（距離A－距離B）が指定範囲内か。



1. 距離A
2. 距離B

スキーのトウアウト（距離A－距離B）：
0.0～15.0 mm

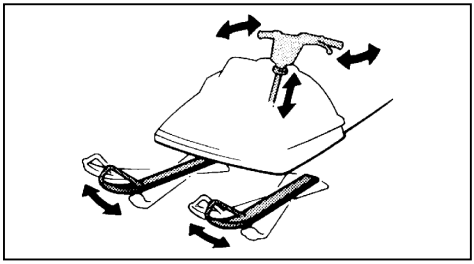
3. アライメント不良の場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

ステアリング系

ハンドルバーに過度の遊びがないか点検してください。

ハンドルバーの点検方法

1. ハンドルバーを上下、前後に押してみてください。
2. ハンドルバーを少しだけ左右に振ってみてください。



過度の遊びが認められる場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

ドライブトラック、スライドランナー

ドライブトラック

⚠警　告

破損したトラックやトラック固定具、あるいはトラックがはね上げた石屑は、運転者や同乗者に危険を及ぼす恐れがあります。次の注意事項を守ってください。

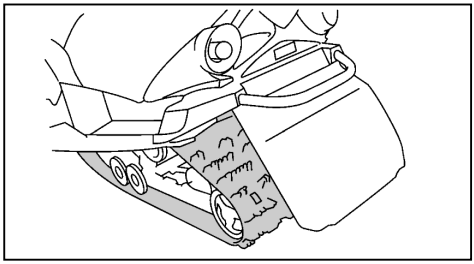
- **エンジンが動いている時は、スノーモビルの後ろに人をだれも立ち入らせないでください。**
- **ドライブトラックを回転させるためスノーモビルのリヤを持ち上げる場合は、適切なスタンドを使用してスノーモビルのリヤ側を支えてください。ドライブトラックを回転させる時、絶対に人手でスノーモビルのリヤを持ち上げないでください。回転しているドライブトラックには絶対に人を近づけないでください。**
- **ドライブトラックの状態は頻繁に点検してください。損傷したスライドメタルは交換してください。ドライブトラックが深く損傷したら、ドライブトラックは交換してください。さもないと損傷・故障したトラックのためブレーキ能力が失われ、スノーモビルが制御できなくなり、事故を起こす恐れがあります。**

ドライブトラックの点検

⚠警　告

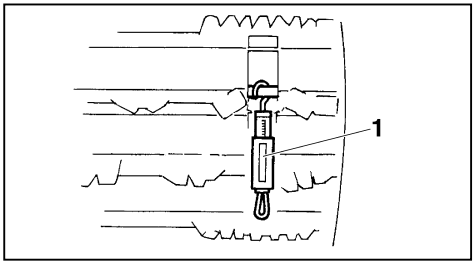
ドライブトラックに損傷または調整不良が見つかった場合、スノーモビルは運転しないでください。ドライブトラックが損傷・故障するとブレーキ能力が失われ、スノーモビルが制御できなくなり、事故を起こす恐れがあります。

ドライブトラックの弛み、摩耗、損傷の有無を点検してください。
必要に応じ調整または交換してください（詳細については以下の項を参照）。



ドライブトラックの弛みの測定

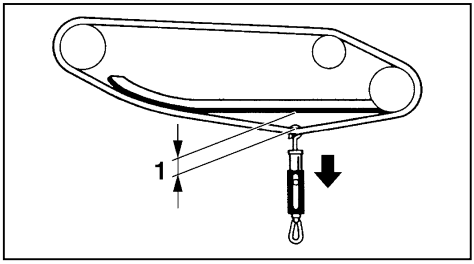
1. スノーモビルを横に寝かせてください。
2. スプリングスケールでドライブトラックの弛みを測定してください。ドライブトラックの中央を100N（10kg）の力で引っ張ってください。



1. バネばかり

要　点

スライドランナーとトラックウィンドウのエッジとの間のギャップを測定してください。左右両側で測定してください。



1. ドライブトラックの弛み

ドライブトラックの標準弛み：
30.0～35.0 mm

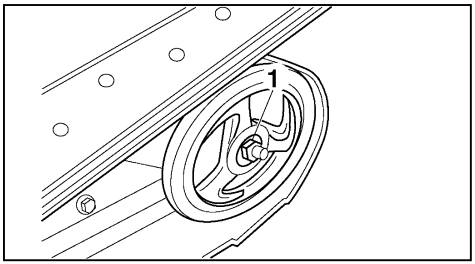
3. 弛みが異常の場合は、ドライブトラックを調整してください。

ドライブトラックの調整

⚠警　告

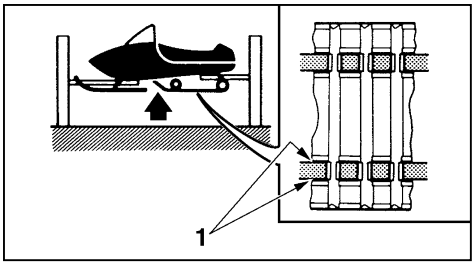
- **この調整は必ずヤマハ販売店に依頼してください。**
- **スノーモビルの下側の作業をおこなう時は、あらかじめ適切なスタンドでスノーモビルをしっかりと支えてください。**
- **エンジンは十分に換気されている場所で回してください。**

1. スノーモビルのリヤを持ち上げて適切なスタンドに載せ、ドライブトラックを地面から離してください。
2. リヤアクスルナットを緩めてください。



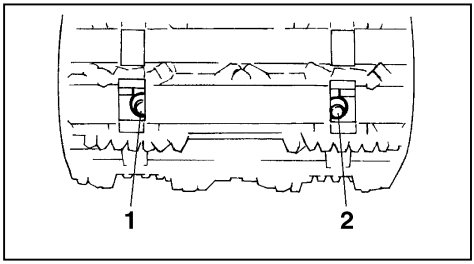
1. リヤアクスルナット

3. エンジンを始動し、ドライブトラックを1、2回転させてください。エンジンを止めてください。
4. ドライブトラックとスライドランナーとのアライメントを点検してください。アライメントが異常の場合は、左右の調整ナットを回してドライブトラックのアライメントを適正にしてください。



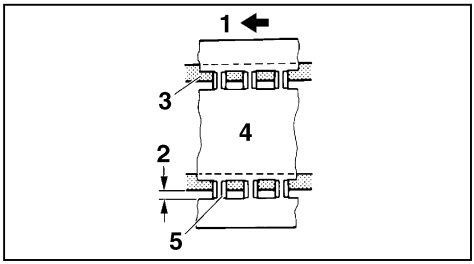
1. スライドランナー

ドライブトラックのアライメント	右に寄っている場合	左に寄っている場合
左側の調整ナット	緩める	締める
右側の調整ナット	締める	緩める



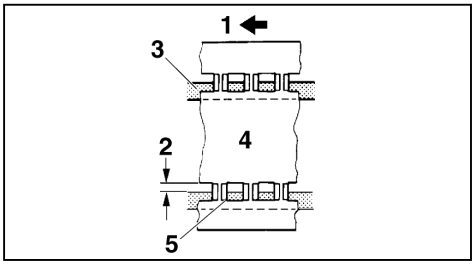
1. 左側の調整ナット
2. 右側の調整ナット

右に寄っている場合



1. 前進方向
2. ギャップ
3. スライドランナー
4. ドライブトラック
5. スライドメタル

左に寄っている場合



1. 前進方向
2. ギャップ
3. スライドランナー
4. ドライブトラック
5. スライドメタル

5. ドライブトラックの弛みを仕様に合わせて調整してください。

ドライブトラックの弛み	指定値を超過	指定値に不足
左側の調整ナット	締める	緩める
右側の調整ナット	締める	緩める

⚠注　意

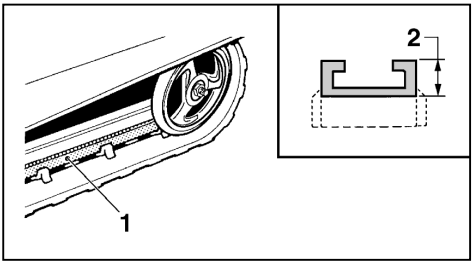
左右の調整ナットは同じ量だけ回してください。

6. アライメントと弛みを再度点検してください。必要ならば調整が適正になるまでステップ3～5を繰り返します。
7. リヤアクスルナットを締めてください。

リヤアクスルナットの締付けトルク：
75 Nm（7.5 m・kgf）

スライドランナー

スライドランナーに磨耗や損傷がないか点検してください。
スライドランナーが磨耗限度に達している場合は、交換してください。



1. スライドランナー
2. 磨耗限度の高さ

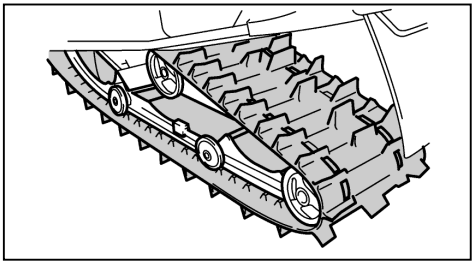
スライドランナーの磨耗限度高：
10.5 mm

⚠注　意

新雪の上を頻繁に走行するようにしてください。氷や圧雪の上で運転するとスライドランナーの磨耗が早くなります。

山高パターンのドライブトラック

当スノーモビルには、特に深い雪面を走行するために51 mmの山高パターンのドライブトラックが標準で装備されています。従って、トラックやスライドランナーの寿命を延ばすために、氷、圧雪面、泥などの固い表面を長時間にわたって走行しないようにしてください。



⚠注　意

- **深い雪面の走行にのみ使用してください。**
- **雪の少ない状態、氷、圧雪面、泥、草地などの固い表面を走行すると、潤滑の役割をする雪が無いために、トラックやスライドランナーが短時間で摩耗したり、損傷することになります。**

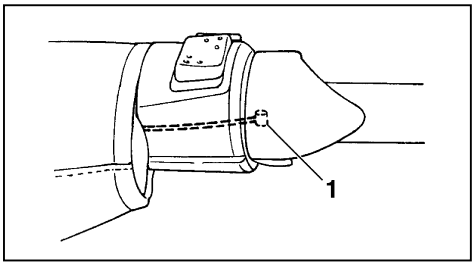
給脂

以下の各給脂（潤滑）ポイントに、指定のグリースを給脂してください。

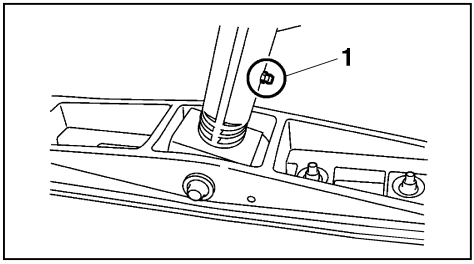
⚠警　告

- **グリースは、ケーブルエンドだけに塗布してください。スロットルケーブル自体にはグリースを注油しないでください。さもないとケーブルが凍結して制御不能になることがあります。**
- **フロントとリヤのサスペンションの給脂は、必ずヤマハ販売店に依頼してください。**

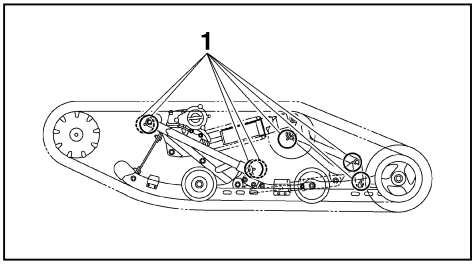
潤滑油：
低温用グリース



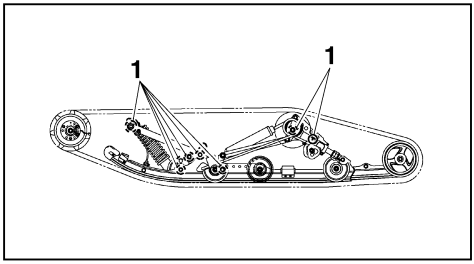
1. スロットルケーブルエンド



1. 給脂ポイント



1. 給脂ポイント



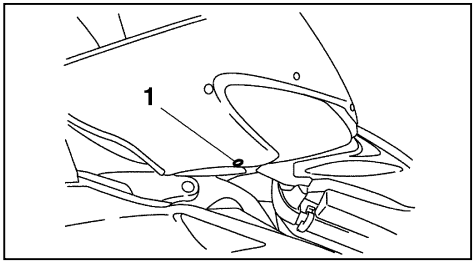
1. 給脂ポイント

ヘッドライトバルブの交換

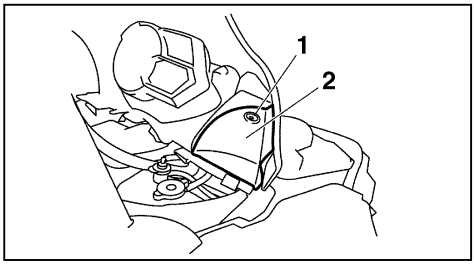
⚠警 告

熱いバルブが冷えるまで引火性の製品や手を接触させないでください。

1. トップカバーを取り外します。(取外し手順は51ページを参照)。
2. ねじを取り外し、ヘッドライトアクセスパネルを取り外します。



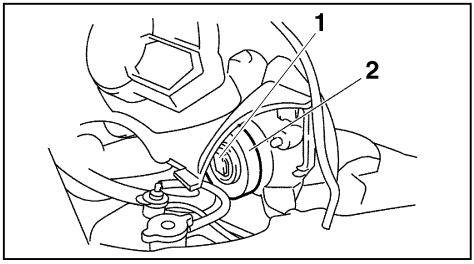
1. ねじ



1. ねじ
2. ヘッドライトアクセスパネル

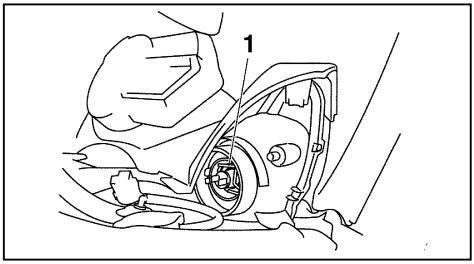
3. ヘッドライトカプラの接続を外してください。

4. バルブホルダカバーを外してください。



1. ヘッドライトカプラ
2. バルブホルダカバー

5. バルブホルダを押し込み、右回り（時計回り）に回してフックを外してください。



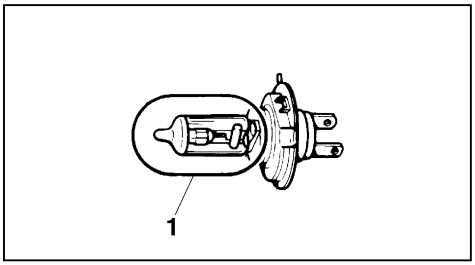
1. バルブホルダ

6. バルブを外してください。
7. 新しいバルブを取り付け、バルブホルダをヘッドライトユニットに取り付けてください。

バルブの種類：
ハロゲンバルブ

⚠注　意

バルブのガラス部分にはオイルや手を接触させないでください。さもないとバルブの寿命が縮まり、照度も影響を受けます。ガラス部分にオイルが付着した場合、アルコールまたはラッカーシンナーをつけた布できれいに清掃してください。



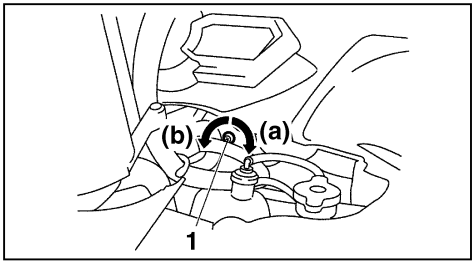
1. ハロゲンバルブのガラス部分に手を触れないこと。

8. バルブホルダカバーを取り付け、ヘッドライトカプラを接続してください。
9. ヘッドライトアクセスパネルとトップカバーを取り付けます。

ヘッドライトビームの調整

1. トップカバーを取り外してください（取外し手順は51ページを参照）。
2. プラスドライバーを使用してヘッドライトビーム調整ねじを回して、ヘッドライトビームを調整します。

ヘッドライトビームを下げるには、ヘッドライトビーム調整ねじを（a）方向に回します。ヘッドライトビームを上げるには、ヘッドライトビーム調整ねじを（b）方向に回します。



1. ヘッドライトビーム調整ねじ

3. トップカバーを取り付けてください。

取付金具、ボルト類

取付金具とボルト類が確実に締め付けられていることを、確認してください。
必要に応じ、適切な順序とトルクで増し締めしてください。

バッテリ

当スノーモビルには、密閉式（MF）バッテリが搭載されており、バッテリのメンテナンスは不要です。バッテリの電解液の点検や、蒸留水の補充は不要です。

バッテリの充電

バッテリの放電が疑われる場合は、直ちにヤマハ販売店でバッテリの充電をおこなってください。
スノーモビルに電動式のアクセサリ類を装備している場合、バッテリの放電が起こりやすくなりますので留意してください。

⚠警　告

バッテリでおこなわれる電気分解は有毒であり危険です。
バッテリには硫酸が含まれており、重度の火傷を引き起こす恐れがあります。皮膚、目、衣服を接触させないでください。
接触した場合の処置：

- **体外：水洗いします。**
- **体内：大量の水またはミルクを飲みます。続いてマグネシアミルク、溶き卵、或いは植物性の油を飲みます。すぐに医師の診察を受けてください。**
- **目：15分間水洗いし、すぐに医師の診察を受けてください。**

バッテリは爆発性のガスを排出します。火花、火炎、たばこなどを近づけないでください。充電中あるいは密閉されたスペースで使用中は通気をおこなってください。バッテリの近で作業する時は必ず目を保護してください。
近くに子供を寄せつけないでください。

ヒューズの交換

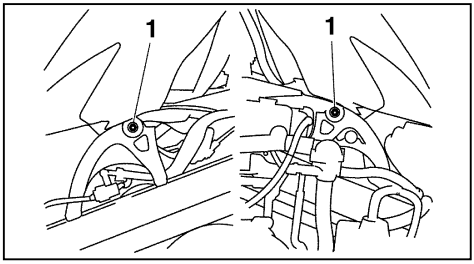
⚠警　告

必ず指定のヒューズを使ってください。指定外のヒューズを使った場合、電気系が損傷し、火災の危険が生じます。

⚠注　意

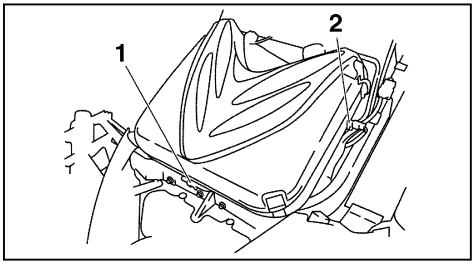
誤ってショートを起こさないように、メインスイッチをオフ位置にして、バッテリのマイナス（−）ケーブルを外してください。

1. シュラウド、左右サイドカバーおよびトップカバーを取り付けます。（取外し手順は50ページを参照）。
2. ヘッドライトユニットボルトを外し、ヘッドライトカプラおよびスピードメータカプラの接続を外し、ヘッドライトユニットを取り外します。



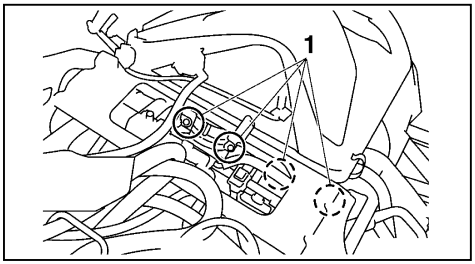
1. ヘッドライトユニットのボルト

3. エアフィルタケースの固定具のフックを外し、気温センサカプラの接続を外します。



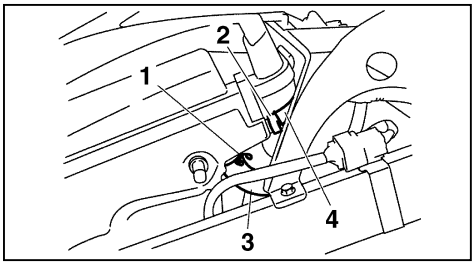
1. 固定具
2. 気温センサカプラ

4. ジョイント固定ねじを緩めます。



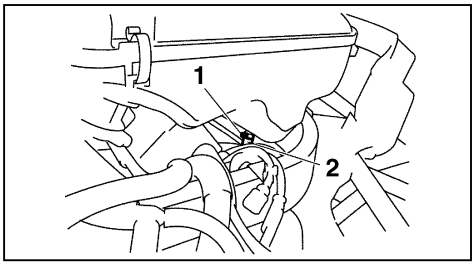
1. ジョイント固定ねじ

5. クランプをエアフィルタケースからずらし、クランクケースブリーザーホースとバイパスエアホースを外します。



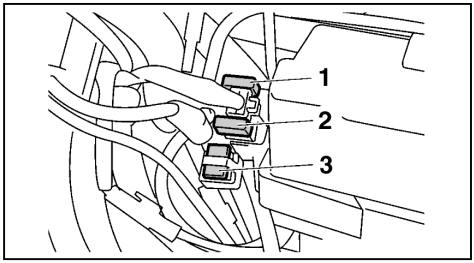
1. クランクケースブリーザーホースクランプ
2. バイパスエアホースクランプ
3. クランクケース·ブリーザーホース
4. バイパスエアホース

6. クランプを下にずらし、エアフィルタケースドレンホースを外します。

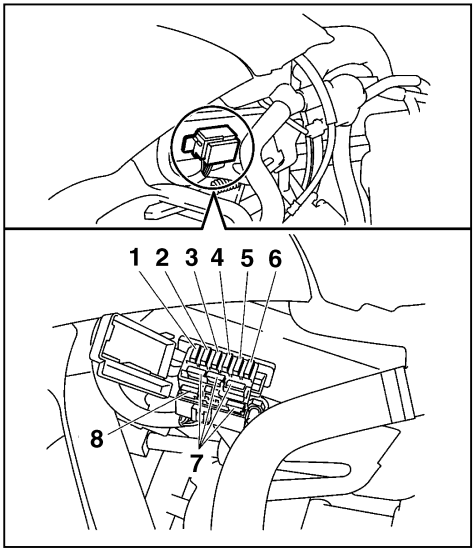


1. エアフィルタケースドレンホースクランプ
2. エアフィルタケースドレンホース

7. エアフィルタケースを外します。
8. バッテリのマイナスケーブルを外してください。
9. 溶断したヒューズを、適正アンペアのヒューズと交換してください。



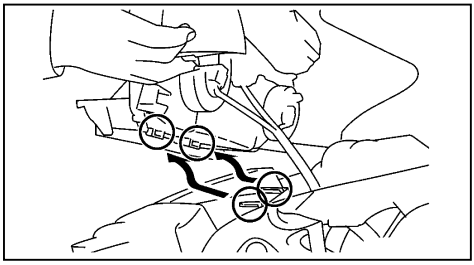
1. 予備ヒューズ
2. FI（燃料噴射）システムのヒューズ
3. メインヒューズ



1. “HEAD”（ヘッドライト）用ヒューズ
2. “SIG”（シグナル）用ヒューズ
3. “DC TERM”（予備用DCアウトレット）用ヒューズ
4. “IGN”（イグニッション）用ヒューズ
5. “BACK UP”（バックアップ）用ヒューズ
6. “FAN”（ラジエータファン）用ヒューズ
7. 予備ヒューズ
8. “ECS”（電制リヤショックアブゾーバ）用ヒューズ

指定ヒューズ：
メインヒューズ：
40.0 A
FI（燃料噴射）システムのヒューズ：
10.0 A
“HEAD”（ヘッドライト）用ヒューズ：
20.0 A
“SIG”（シグナル）用ヒューズ：
10.0 A
“DC TERM”（予備用DCアウトレット）用ヒューズ：
3.0 A
“IGN”（ignition）fuse：
20.0 A
“BACK UP”（バックアップ）用ヒューズ：
3.0 A
“FAN”（ラジエータファン）用ヒューズ：
4.0 A
“ECS”（電制リヤショックアブゾーバ）用ヒューズ：
10.0 A
予備ヒューズ：
20.0 A, 10.0 A, 4.0 A, 3.0 A

10. バッテリのマイナスケーブルを接続してください。
11. エアフィルタケースを、取外しと逆の手順で取り付けます。
12. ヘッドライトカプラおよびスピードメータカプラを接続し、ヘッドライトユニットを取り付けます。ヘッドライトユニットステーの突起がヘッドライトユニット底部の溝に挿入されているか確認してください。



13. ヘッドライトユニットのボルトを取り付け、指定のトルクで締めます。

ヘッドライトユニットのボルトの締付けトルク：
3 Nm（0.3 m・kgf）

14. トップカバー、左右サイドカバーおよびシュラウドを取り付けます。

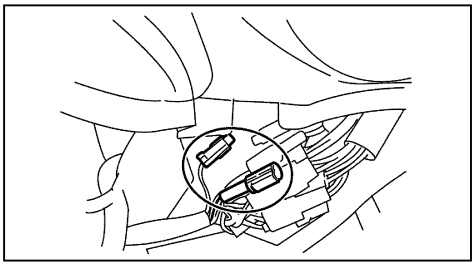
要　点

交換したヒューズが再びすぐに溶断する場合は、ヤマハ販売店にスノーモビルの点検を依頼してください。

トラブルシューティング

エンジンは回るが始動しない。

1. 燃料系統
   燃焼室に燃料が補給されない。
   - 燃料タンクにガソリンがない：燃料を補給する。
   - 燃料系統の詰まり：燃料系統を清掃する。
   - フューエルインジェクタ（FI）の詰まり：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
     燃焼室に燃料が補給される。
   - エンジンの燃料過多：エンジンを回転させる。またはスパークプラグを拭いて乾かす。
2. 電気系統
   スパークプラグの火花が弱いまたは無い。
   - スパークプラグがカーボンで汚れている、あるいは湿っている：カーボンを除去する、またはスパークプラグを拭いて乾かす。必要に応じ交換する。
   - 点火系統の故障：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
   - T.O.R.S.系の不具合：スロットルスイッチコネクタを外し、ワイヤーハーネスコネクタを一緒に接続してT.O.R.S.をバイパスさせます。



⚠警　告

- **T.O.R.S.をバイパスする前に、必ずスロットルを全閉位置に確実に戻しておいてください。**
- **T.O.R.S.は重要安全部品です。不具合があったらすぐにスノーモビルをヤマハ販売店に持ち込んで修理を依頼してください。**

3. 圧縮
   不十分な場合
   - シリンダヘッドナットの緩み：ナットを正しく締め付ける。
   - ガスケットの磨耗または損傷：ガスケットを交換する。
   - ピストンとシリンダの磨耗または損傷：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

バッテリ上がり

バッテリが放電した場合は、完全充電した別の12 V DCのバッテリとジャンパハーネスを使用してエンジンを始動できます。スノーモビルのジャンプスタート用に、2本の接続用リード線が用意されています。ラバー製のエンジンマウントを使用しているため、スノーモビルのフレームは、エンジンのジャンプスタート時のアース用には使えません。

⚠警　告

- **接続するリード線の端子にのみ、ジャンパケーブルを接続してください。スノーモビルのフレームや、他のワイヤー/リード線には接続しないでください。**
- **ジャンパケーブルを接続する時に、2本のジャンパケーブル間、および2つの接続リード線の端子間を接触させたり、スノーモビルのフレームや金属部分に触れさせないでください。万一触れた場合、電気系統が損傷したり、火災が発生する恐れがあります。**

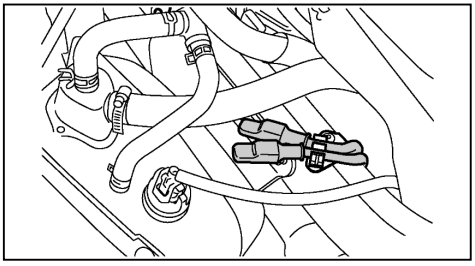
- **リード線のカバーを完全に引き出して、端子を完全にカバーするようにしてください。端子が露出していると、スノーモビルのフレームや金属部分と接触して、電気系統の損傷や火災の原因になる恐れがあります。**

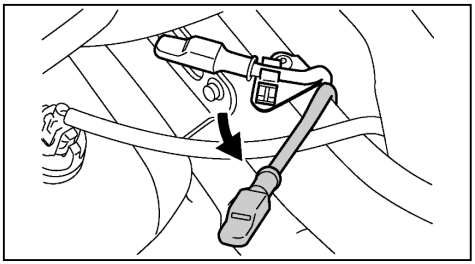
⚠注　意

接続用リード線は、スノーモビルをジャンプスタートさせる場合にのみ、使用してください。接続用リード線を他の目的に使用しないでください。

ブースターチャージャを使用してエンジンを始動する方法

1. パーキングブレーキをかけ、メインスイッチをオフ位置にします。
2. シュラウドと右側カバーを外します。（取外し手順は50ページを参照）。
3. 赤色（＋側）の接続用リード線をリードホルダから外し、黒色（－側）の接続用リード線から離します。

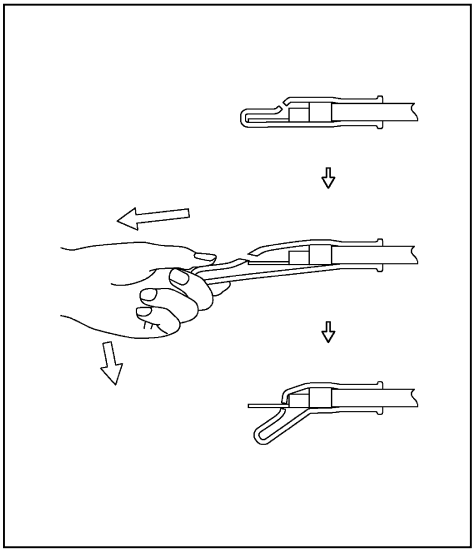




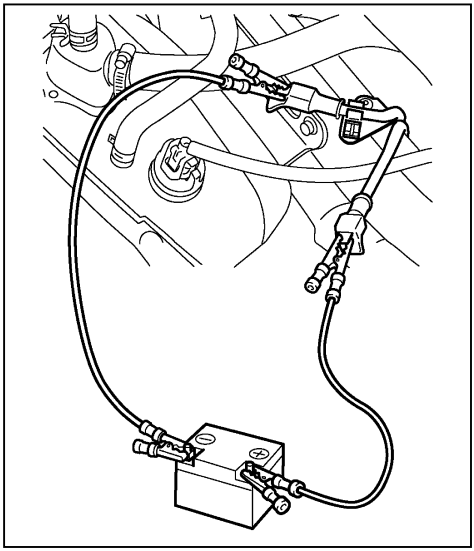
⚠注　意

赤色（＋側）のジャンパケーブルを、赤色（＋側）の接続用リード線に接続し、黒色（－側）のジャンパケーブルを黒色（－側）の接続用リード線に接続してください。絶対に、逆に接続しないでください。

4. 赤色（＋側）の接続用リード線のカバーを引っ張って端子を（カバーのスリット部から）露出させ、赤色（＋側）のジャンパケーブルを赤色（＋側）の接続用リード線に接続します。



5. 赤色（＋側）のジャンパケーブルのもう一方の先端を、ブースターチャージャのプラス（＋）端子に接続します。
6. 黒色（－側）のジャンパケーブルを、ブースターチャージャのマイナス（－）端子に接続します。
7. 黒色（－側）の接続用リード線のカバーを引っ張って端子を（カバーのスリット部から）露出させ、黒色（－側）のジャパケーブルを黒色（－側）の接続用リード線に接続します。



8. エンジンを始動してください。
9. 黒色（－側）のジャンパケーブルを、黒色（－側）の接続用リード線から外し、リード線の端子をカバーで完全に覆います。
10. 黒色（－側）のジャンパケーブルを、エンジンのジャンプスタートに使用するバッテリのマイナス（－）端子から外します。
11. 赤色（＋側）のジャンパケーブルを、エンジンのジャンプスタートに使用するバッテリのプラス（＋）端子から外します。
12. 赤色（＋側）のジャンパケーブルを、赤色（＋側）の接続用リード線から外し、リード線の端子をカバーで完全に覆います。
13. 赤色（＋側）の接続用リード線を、リードホルダに取り付けます。
14. 右側カバーとシュラウドを取り付けます。

要　点

赤色（＋側）の接続用リード線と、黒色（－側）の接続用リード線は、リードホルダに確実に固定してください。

電気スタータが動作しない、または動作が遅い

- エンジン停止スイッチが押されている：引き出してください。
- ワイヤー接続の不具合：接続を点検、またはヤマハ販売店に点検を依頼。
- バッテリ上がり：バッテリを充電するか、上記の「バッテリが放電した場合のエンジンの始動」を参照。
- エンジンの焼きつき：潤滑不足、不適切な燃料、またはエア漏れのため焼きつきが発生。
  ヤマハ販売店に点検を依頼する。

エンジン出力が低い

- クーラント温度低下インジケータが点滅している：エンジンを暖気運転する。
- スパークプラグの不具合：スパークプラグを清掃または交換する。
- 燃料フローの異常：上記の「エンジンは回るが起動しない－燃料系統」の項を参照。
- 標高または諸条件にVベルトクラッチの設定が不適切：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

エンジンがいつもバックファイヤを起こす、または失火する

- スパークプラグの不具合：スパークプラグを交換する。
- 燃料系統の詰まり：上記の「エンジンは回るが起動しない－燃料系統」の項を参照。
- T.O.R.S.系の不具合：上記の「エンジンは回るが起動しない－電気系統」の項を参照。

エンジンのオーバーヒート
- クーラント不足：クーラントを補充する。
- 冷却系統へのエア混入：冷却系統のエア抜きをする、またはヤマハ販売店に点検を依頼。
- クーラントの漏れ：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

スノーモビルが動かない
- Vベルトクラッチの不具合：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- ドライブトラックが動かない：ドライブトラックの異物噛み込み、または潤滑不足のためスライドランナーがスライドメタルに溶着。
- ドライブチェーンがきつい、緩い、または破損：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

Vベルトのねじれ
- Vベルトの不良：良品Vベルトと交換する。
- Vベルトクラッチのオフセットが不適正：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- エンンマウントの緩み、破損：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

Vベルトの滑り、焼け
- Vベルトまたはプライマリー/セカンダリーシーブアセンブリにオイルまたは泥が付着：清掃する。
- ドライブラインに問題あり：上記の「Vベルトのねじれ」を参照。

シフトアップ、シフトダウンがうまく行かない、またはシフトした時ショックがある
- Vベルトの磨耗または損傷：Vベルトを交換する、またはヤマハ販売店に点検を依頼する。
- 標高または諸条件にVベルトクラッチの設定が不適切：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- プライマリーシーブアセンブリの磨耗または粘着：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- セカンダリーシーブアセンブリの磨耗または粘着：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

ドライブチェーンとスプロケットのノイズまたは大きな振動
- Vベルトクラッチ部品の破損：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- ベアリングの磨耗または損傷：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- Vベルトの磨耗または損傷：交換する。
- アイドラーホイールまたはシャフトの磨耗または損傷：ヤマハ販売店に点検を依頼する。
- ドライブトラックの磨耗または損傷：ヤマハ販売店に点検を依頼する。

保管方法

スノーモビルを長期間保管する時は、劣化防止のため何らかの予防措置が必要です。

エンジン

シリンダやピストンリングなどを腐食から守るために、以下の手順を実行してください。

1. スパークプラグキャップとスパークプラグを外します。
2. 小さなスプーン1杯程度のエンジンオイルを、スパークプラグのそれぞれのボア（孔）に注ぎます。
3. 各スパークプラグにスパークプラグキャップを付け、各スパークプラグをシリンダヘッドに取り付けて、電極をアースさせます。（これは次のステップでの点火を押えるためです。）
4. スタータを使って、エンジンを数回始動します。（これはシリンダウォール面にオイルを塗布するためです。）
5. 各スパークプラグからスパークプラグキャップを外し、スパークプラグとスパークプラグキャップを取り付けます。

⚠警　告

点火時の損傷や負傷を防止するために、スパークプラグの電極を必ずアースしてから、エンジンを始動してください。

シャーシ

1. 指定給脂箇所すべてにグリースまたはオイル（SAE 5W-30）を注油します。
2. ドライブトラックを緩め、シャーシをブロックの上に載せ、トラックを地上から離します。
3. スノーモビルの外装を清掃し、防錆剤を塗布します。
4. 乾燥し通気がよい場所に、カバーをかけてスノーモビルを保管してください。
5. 保管、輸送する時、スノーモビルを斜めにしないでください。

バッテリ

スノーモビルからバッテリを取り外してください。バッテリは、0℃以上で、30℃未満の乾燥した涼しい場所に保管してください。バッテリは、0℃以上で、30℃未満の乾燥した涼しい場所に保管してください。バッテリの状態は１ヵ月に１回点検し、必要に応じ充電してください。

⚠警　告

- **バッテリの充電時は、そばで喫煙してはなりません。バッテリから発生する水素ガスが発火して爆発する危険があります。**
- **バッテリからリード線を外す時は、まずマイナス側、次いでプラス側を外してください。**
- **バッテリを取り付ける時は、まずプラス側、次いでマイナス側のリード線をバッテリに接続してください。**
- **バッテリの充電中に、バッテリをスノーモビルに接続したり、切り離してはなりません。バッテリから発生する水素ガスが発火して爆発する危険があります。**
- **バッテリの各端子が確実に接続されていることを確認してください。**

⚠注　意

- バッテリは常に充電状態を保つようにしてください。放電した状態でバッテリを保管すると、バッテリに永続的な損傷を及ぼす可能性があります。
- 密閉型（MF）のバッテリを充電する時は、特殊な（定電圧）バッテリチャージャが必要です。従来のバッテリ充電器を使用すると、バッテリに損傷を及ぼすことになります。
  密閉式（MF）のバッテリ用のバッテリチャージャを入手できない場合は、ヤマハ販売店で充電してください。
- バッテリのクイックチャージは、決しておこなわないでください。
  バッテリは、1.2 Aで約10時間かけて充電してください。

要　点

バッテリを取り付ける前に、ヤマハ販売店に点検とフル充電を依頼してください。

仕様諸元

	販売名称		RX-1 M-TX SE
寸法	全長		3335mm
	全巾		1165mm
	全高		1185mm
	乾燥重量		279kg
原動機	エンジン種類		4サイクル 5バルブ
	冷却方式		水冷
	気筒数・配列		4気筒、並列
	総排気量		998cm^3
	内径×行程		74.0mm×58.0mm
	アイドリング回転数		1400～1600r/min
	圧縮比		11.8 : 1
	最高出力時回転数		10.500r/min
	最大トルク時回転数		9.000r/min
	始動方式		セルスタータ
	点火方式		デジタルT.C.I
	潤滑方式		ドライサンプ
	キャブレタ方式		39EIDW×2
	キャブレタメーカー		ミクニ
	スパークプラグ型式		CR9EB（NGK）
スイッチ	キルスイッチ		プッシュ・プル式
車体	フレーム		モノコック（アルミ）
	カウル		ポリプロピレン
	ラゲージボックス		シート下
	パッセンジャーグリップ		無
	燃料タンク容量		38.3L
	オイルタンク容量		2.5L
動力伝達装置	1次減速		Vベルト式
	クラッチ型式		自動遠心クラッチ
	変速機型式		Vベルト自動変速機
走行・懸架装置	走行装置	前	スキー×2
		後	トラック（内ラグ）
	トラック材質		補強入りラバー
	トラック駆動		複列駆動
	トラック弛み		30～35mm / 10 kg
	懸架方式	前	インデペンデントダブルウィシュボーン
		後	プロアクションプラス
ブレーキ方式			ベンチレーテッド油圧式ディスクブレーキ
燈火	ヘッドライト		12V-60/55W×2
			Hi/Low ビーム付ハロゲンバルブ
	ストップ／テールランプ		LED
	バッテリ型式		YTX14-BS
	バッテリ容量		12V12AH
乗車定員			1名

この仕様諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました製品やサービスに関してのご意見はご購入いただいたヤマハ販売店または下記の<ご相談窓口>へお気軽にお申し付けください。

名　称	電話番号	郵便番号	所　在　地
■本社			
ヤマハ発動機販売（株）営業統括部			
営業部冬期商品販売課	☎03(5442)8059	〒108-0073	東京都港区三田3丁目10-1 アーバンネット三田ビル8F
■北海道			
ヤマハ発動機販売（株）北海道営業所			
	☎011(222)6151	〒060-0031	北海道札幌市中央区北1条東7丁目10-35
サービス課	☎011(222)6151	〒060-0031	北海道札幌市中央区北1条東7丁目10-35
■東北			
ヤマハ発動機販売（株）東北営業所			
	☎022(772)7071	〒981-3112	宮城県仙台市泉区八乙女1丁目-1-10
サービス課	☎022(772)7083	〒981-3112	宮城県仙台市泉区八乙女1丁目-1-10
■関東			
ヤマハ発動機販売（株）			
サービスセンター関東	☎048(449)6232	〒335-0031	埼玉県戸田市美女木1054番
■中部			
ヤマハ発動機販売（株）中部営業所			
サービス課	☎052(939)1785	〒461-0023	愛知県名古屋市東区徳川町1013
■西日本			
ヤマハ発動機販売（株）西日本営業所			
冬期商品販売課	☎078(806)7325	〒657-0841	兵庫県神戸市灘区灘南通1-1-6
サービスセンター西日本	☎078(806)7308	〒657-0841	兵庫県神戸市灘区灘南通1-1-6
■九州			
ヤマハ発動機販売（株）九州営業所			
サービス課	☎092(411)3785	〒816-0097	福岡県福岡市博多区半道橋2丁目7-52

【ご注意】

- 土曜、日曜、祝日、年末年始は休業させていただきます。
  その他夏期等休業させていただく場合があります。
- 区画整理、電話局の親増設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

索引（さくいん）

あ行

安全にご使用するにあたって 7
一般的な点検と潤滑チャート 48
運転 8
運転の前に 7
エアフィルタの点検 56
エンジンオイルと、オイルフィルタ
　カートリッジ 58
エンジンオーバーヒート防止装置 13
エンジン停止 45
エンジン停止スイッチ 22
エンジンのアイドリング回転数の
　調整 53
エンジンの始動 37
オイルレベル警告灯 20
お客様ご相談窓口のご案内 91

か行

各部の名称 11
給脂 76
緊急安全装置
スロットルオーバーライドシステム
　（T.O.R.S.）..... 14
緊急安全装置
スロットルオーバーライドシステム
　（T.O.R.S.）の点検 55
クーラント温度警告灯 21
クーラント温度低下インジケータ 18
グリップ/サムウォーマー
　調整スイッチ 22
コントロール機能（各部の機能）..... 13

さ行

サスペンション 29
自己診断装置 21
シフトレバー 25
収納用コンパートメント 27
重要ラベル 5
シュラウドとカバー 26
シュラウドとカバーの取外しと
　取付け 50
仕様諸元 89
使用前の点検 35
使用前の点検リスト 35
スキー、スキーランナー 71
ステアリング系 72
ストラップ 43
スノーモビルに乗る場合 38
スパークプラグの点検 52
スピードメータユニット 15
スロットルケーブルの遊びの調整 54
スロットルレバー 13
走行 44
操作方法 37

た行

ツールキット 50
定期点検 47
ドライブガード 27
ドライブチェーンハウジング 67
ドライブトラック、
　スライドランナー 73
ドライブトラックを長持ち
　させるには 42

トラブルシューティング 83
取付金具、ボルト類 79

な行
慣らし運転 38
燃料 28
燃料計とグリップ/サムウォーマー
　レベルインジケータ 18

は行
パーキングブレーキレバー 25
排ガス制御装置の定期点検チャート 47
ハイビームインジケータ 17
バッテリ 79
バルブクリアランス 58
ヒューズの交換 80
標高の高い場所で走行する場合の
　設定 58
フューエルレベル警告灯 20
ブレーキ、パーキングブレーキ 69
ブレーキレバー 24
ヘッドライトバルブの交換 77
ヘッドライトビームスイッチ 22
ヘッドライトビームの調整 79
保管方法 87
保守と保管 9

ま行
メインスイッチ 13

や行
山高パターンのドライブトラック 76
輸送 46
予備用DCアウトレット 23

ら行
リヤキャリヤ 27
冷却系 62

アルファベット
Vベルト 64
Vベルトホルダ 27

★ヘルメットを必ずかぶりましょう。
★オフロードモデルは公道を走れません。
★点検・整備を忘れずに。
★安全のため改造はやめましょう。
★安全運転講習を受けましょう。
★天気予報を確認して、無理のないツアー計画を。
★ツアー時は安全備品や予備燃料を忘れずに。
★マナーを守って走行しましょう。
★動物や植物など自然への思いやりを。
★スノーモビル保険に加入しましょう。
★オフロードモデルは運輸省の認定を受けていませんので、
ナンバープレートを取得できません。
★オフロードモデルの公道走行は、道路交通法及び
道路車両法の違反となります。

YAMAHA

QQS-CLT-885-8GY

2007.09-0.3×1

再生紙を使用しています。